

論説

指示代名詞の中国語陝西方言における3分法とその地理言語学的特徴（現場指示用法）

安部清哉

【キーワード】 指示代名詞，中国語陝西方言，3分法，モンスーン・アジア，地理言語学

【要旨】 アジア・モンスーン地域における指示代名詞の歴史的研究の一環として，特にその現場指示用法に関し，中国語陝西省の方言における調査結果を報告する（3分法・2分法）。地理言語学的解釈を加え，2分法から，ある種の3分法（本稿でのⅡ型）を発達させて3分法へと移行した，という変化の可能性について検討する。

調査は，陝西省出身の20歳代（大学生）に，高橋太郎氏の調査法（高橋調査法）による集団調査と，挿絵を見ての個別調査（安部方式）を行った。本稿ではその集団調査の中から，特に3分法用法に見られた3つのパターンを中心に報告し，2分法用法との地理言語学的特徴について考察する（2分法の具体的特徴については別稿の安部・高木（2015.3）を参照）。具体的には，以下の点を明らかにすることができた。

(1) 中国語陝西方言における指示代名詞の現場指示用法には，2分法と3分法とがある。3分法地域は，省内の西安市を含む中部地域に（2分法に南北を挟まれる形で）分布するという偏在が確認できる。

(2) 3分法の地域は，張維佳・張洪燕（2007b）の調査結果と比較してみると，その報告地域とほぼ同地域であることを確認することができた。

(3) 張維佳・張洪燕（2007b）では省内の2分法の報告地域は（データ

(2)

の制約もあるためか) 省の周辺に若干報告されているだけであるため、3分法との境界(分布領域の相違)が必ずしも明確ではなかった。しかし、今回の調査における2分法と3分法との相補分布の状況からは、3分法の分布範囲(張・張(2007b))を挟むようにして、そのすぐ南北に2分法が分布し、その2分法は周辺の省に連続していることを、新たに明らかにすることができた。

(4) その3分法の用法には、3つのパターンが見られ(I型=近一中一遠、II型=近一中遠一遥【「遥称」(仮称)=かなり遠くの方】、III型=近一中一遠一周域)、それぞれに地域的偏りが認められた。

(5) 陝西省内の2分法の偏在を見ると、歴史的に大都市である西安を含む3分法地域によって分断されているという地理的分布は、そこに仮に「遠隔地区連続の法則」を適用して解釈できるとするならば、省内全域が2分法であったものが、その中間部である地域——歴史的に、多様な言語や方言が長期間に集約され混成されたであろう西安とシルクロード沿いの地域——で3分法が発達して拡大し、2分法地域を南北に分断することになった蓋然性が高い、と解釈できる。

(6) 上記(5)の解釈は、西安北部の2分法と3分法との境界領域において、用法上2分法と3分法の間接的用法とも解釈できる3分法のII型(《近一中遠称》の2項対立に「遥称」が加わる)が分布しているという地理言語学的特徴からも補強される。

(7) 特に(5)の解釈に、文献資料等による裏付けが得られて史的解釈の妥当性が検証できるならば、陝西省での事例は、3分法が多様な言語と多様な文化が混在した都市部で発達した新形式である可能性を示唆するものとして、極めて興味深い事例となる。それは、2分法から3分法に発達した日本語や、近時3分法用法の様相を示している他のアジアの言語での変化を考察する上でも、貴重な比較材料になる。

1 はじめに——研究上の課題と目的

1.1 日本語史上の研究の課題

指示代名詞の研究は、その複雑な使用法を解明しつつ、近年、その分析と理論的考察もいっそう深化してきている（金水・田窪（1992）、岡崎友子（2010）など参照）。

本稿執筆者（安部）は、安部（2009.3b）において、指示代名詞の問題を取り上げ、日本語が歴史的に2分法から3分法に移行してきた要因や史的過程を解明する上では、近隣言語との比較・対照研究も必要で、かつ、有効であろうこと（比較言語学的、類型論的、対照言語学的いずれにせよ）、また、その3分法への変化の背景としては、近隣言語の3分法の間接直接の影響も（より古い段階としては基層語の影響も含む）、その可能性として視野に入れておくべき問題であること、などを指摘した。

1.2 アジアにおける指示代名詞の分布と歴史的研究の課題

アジア・太平洋地域（モンスーン・アジア地域＝MA）における指示代名詞の用法には、その地理的分布と歴史の変遷に特徴がある（安部（2009.3b））。地理言語学的特徴としては、アジア・太平洋地域には2分法が広く分布しているが、その中でも、東アジアと太平洋における比較的接近した地域の言語——日本語・朝鮮語・オーストロネシア語AN・中国語（中部・南部方言）・タイ語・ヴェトナム語ほか——においては、3分法の分布が（このMAの広域の中において見ればある程度）まとまって見られる。今後のこの地域における指示代名詞の研究課題として、次のような諸点を、安部（2009.3a）、安部（2009.3b）で指摘した。

- ① MA 地域における3分法用法の地理的近接に関する言語史的な検討
- ② 3分法をもつ各言語（ないし各方言）におけるその用法に関して、統一的基準に基づいた厳密な調査と相互の比較によるその類型の解明

(4)

③ MA 地域内の諸言語・諸方言における未発見の3分法の言語・方言の調査

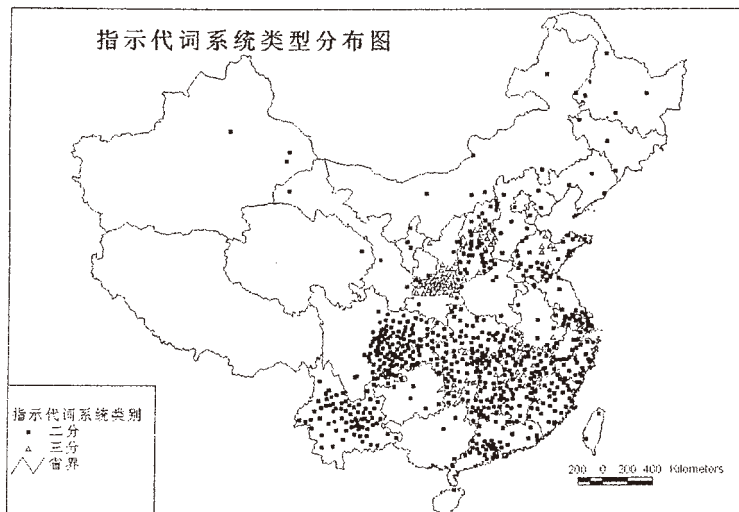
執筆者は、これらの課題に対する研究の1つとして、中国国内においてももっとも詳しい研究である張維佳・張洪燕の一連の研究で、3分法が色濃く分布すると報告されている中国陝西省の方言における指示代名詞の現場指示の用法を調査した。それは、陝西省出身の20歳代の話者21名程を対象にしたものである。本稿では、その調査結果の一部を報告し、陝西省内での地理的分布について検討する。

1.3 中国語陝西方言における指示代名詞の分布(張維佳・張洪燕(2007b))

中国語陝西方言における指示代名詞の分布は、張維佳・張洪燕(2007b)の分布地図(◆図1 中国語方言指示代名詞 系統類型分布図)であらましがわかる。

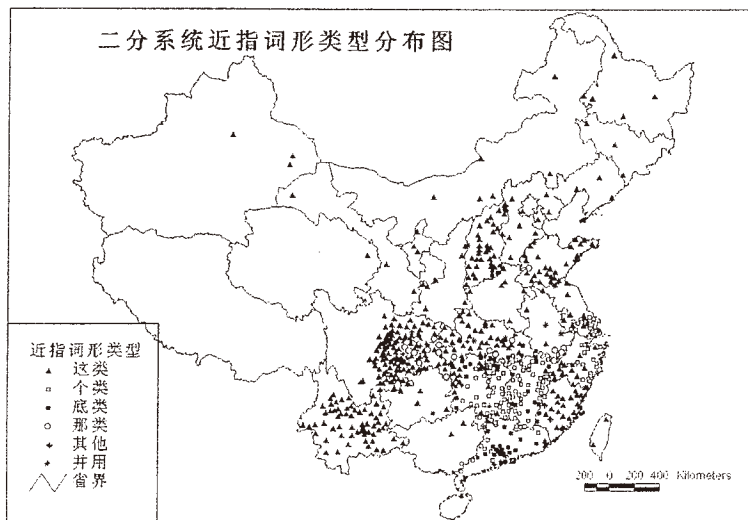
その陝西省の部分を見ると、中央部に3分法を示す記号が記載されているが、一方、その南北は省の境界付近にわずかに分布記号があるだけで、ほとんど空白のままである。◆図1では2分法である地域にも記号が記載されているので、空白地域については、3分法・2分法の情報がなかったことを意味する。参考まで、2分法の分布のみを掲載したのが◆図2「指示詞2分法体系系統の近称語形別類型分布図」である。◆図1のデータから2分法のみを抽出して類型を示した図であるが、2分法は省境界付近にわずかに確認されているにすぎない。(3分法のみ抽出図は、後掲の◆図3～5参照。)

張・張(2007b)は、地域により先行研究による調査資料をも総合して作成されているので、地域によってデータの有無や多寡・粗密が残っているものであり、陝西省のこのような状況もそのような資料上の制約によるものと解釈される。それゆえ、陝西省における2分法・3分法の分布状況がより詳しく把握できれば、この◆図1における3分法の偏在を、より客



汉语方言指示代词系统类型分布图

◆图1 中国語方言指示代名詞 系統類型分布図 (張維佳・張洪燕 (2007b))



汉语方言二分系统近指代词词形类型分布图

◆图2 中国語方言 指示詞 2分法体系系統の近称語形類型分布図 (張維佳・張洪燕 (2007b))

(6)

観的に解釈することが可能となろう。すなわち、南北の空白地域にも3分法があるのか2分法なのか、を明らかにすることができる。さらに東隣の山西省の3分法、その延長の山東省の3分法にほぼ同緯度で連なっているようにも見えるが(◆図1参照)、3分法の分布地帯の地理言語学的解釈に、何らかの示唆を得ることができるかもしれない。

結論を先取りしてより具体的に記せば、以下の通りである。

◇今回の調査の範囲では、3分法の地域は、陝西省の中央部分に分布が偏る。

◇張維佳・張洪燕(2007b)の調査(◆図1)と曹志耘(主編,2008)(◆図7)、さらに今回の3分法および2分法(安部・高木(2015.3)参照)の分布を照らし合わせることで、陝西省内における3分法と2分法の分布範囲とその地理言語学的特徴を、より明確にすることができた。

◇即ち、3分法は西安を含む中央部に分布し(ほぼ◆図1の3分法の範囲)、陝西省全体の2分法を南北に分断したように分布している(◆図1の空白地域は、今回の調査から推定するに、2分法とみられる)。

◇今回調査した3分法の用法(11名分)においても、細かく観察すると、指示範囲等をやや異にする3パターンが認められた。

◇西安の3分法とその北方の2分法との間には、その中間的ともみられる用法が見られる。

◇東隣の山西省北部(北東部)では、2分法と3分法とが報告されている(張・張(2007b))。その山西省に隣接する陝西省榆林市呉堡県宋家川鎮では、1話者であるが、やはり3分法とも見られる回答が確認できた(2分法として報告した安部・高木(2015.3)での表1の話者整理番号「2-⑥(座席番号46)」参照、以下に回答語形を掲載する)。陝西省北部は、2分法だけでなく、3分法の用法についても今後注意して調査していく必要がある。

話者整理番号「2-⑥ (座席番号 46)」

①近称	②中称	③遠称	④遥称 (③より遠方)
zhei4 ge4 <zhe4 er> < > 内は話者情報票 (その前は回答記入票)	ne da xie <nei4 ge4>	■ nei4 <nei4 ge3>	ke1 yuan3 (k45 では ne4 er)

以下では、調査方法を説明した後、調査結果を報告し、その用法の解釈と地理言語学的特徴を述べていくことにする。

2 現場指示用法の調査計画

2.1 調査日時・調査場所

調査は、中国・陝西省の陝西師範大学日本語学科 (主任・王紅教授) の全面のご理解とご協力を得て行われた。当該学科学生のうち、事前に選抜していただいた陝西省出身者のみを対象とし、以下の日時にて学内にて行った (滞在期間：2014年3月13～18日)。

なお、現地における調査依頼、会場の手配や話者への依頼などの事前準備および当日の設定等の作業は、高木愛子氏にご協力戴いたものである (当時、陝西師範大学外国語学院日本語学部外籍講師、現在、帰国して学習院大学大学院修士課程に復学)。

本稿は、そのうちの集団調査 (3月14日) から3分法話者の用法について報告し、2分法の分布と併せて地理言語学的考察を行う (2分法の具体的用法は安部・高木 (2015.3) に報告予定であり、1名ずつの個別調査 (5名分) の報告は後日別稿を予定している)。

○場所 (機関)：陝西師範大学日本語学科

(住所：郵便番号 710062, 中国・陝西省西安市長安南路 199 号)

○調査日時：2014年3月14日～17日

(8)

3月14日 午前9時～(昼休憩)午後～夕方 4名(個別調査 3年生)

3月15日 19時30分～21時30分 集団調査 計21名(1年～4年生)

3月17日 午前9時～ 1名 個別調査 3年生(午後, 講演会)

○調査会場

◇集団調査: 横7m 縦10.5mの縦長の講義室(後掲の回答記入調査票の資料を参照)

◇個別調査: 教員研究室(約20㎡程, 主任・王教授の研究室, 日本の教員研究室様の小部屋で研究机とテーブル, 付属の椅子がある)

2.2 調査方法・調査条件

今回は, 高橋・中村(1992)の調査法に基本的に従って行なった。高橋調査法を解説したものには, 同内容であるが, 高橋・鈴木(1982)と高橋・中村(1992)がある。後者の方が解説が詳しく, かつ, 前者の経験が踏まえられているので, 基本的に後者の手順に従った。その点では安部(2009.3b)と原則的に同じである。異なる点は, 次の程度である。

ア 教室の広さの多少の相違——後掲の調査票のような机の配置と距離を確保した。教室は横7m 縦10.5m。

なお, 教室の規模や机・椅子の配置は, 高橋・鈴木(1982)と高橋・中村(1992)でも異なっており, 適当な規模であればよく, 特に規定されているものではない。図示ないし説明することが望ましいとされている。

イ 高橋調査での手順では, 指示対象となる各番号の位置の学生は(聞き手・話し手ではなく指示される学生), 立って番号の紙を上方に掲げることになっているが, 今回は, ただ番号を胸の位置に持って立つだけで行った。上方に掲げると視線が上方を意識しやすくなり

(安部 (2009.3b)), ア系の指示詞の現れやすくなることが懸念されるためである。

ウ 聞き手の2回の調査における位置(番号)は、教室の広さと人数・配置を考慮し、適宜微妙に変えて調整してある。(今回は、32番と45番の位置で、ほぼ高橋調査法の位置取りに等しい。)

なお、手順の詳細は、紙幅の都合上、上記高橋論文を参照されたい。

2.3 調査票・調査会場(教室)

(1) 話者情報記載票および調査手順解説(安部・高木(2015.3)に掲載) 安部・高木(2015.3)に掲載したような「話者情報記載票および調査手順解説」を配布し、調査手順の解説を見てもらいながら、口頭で手順を説明し(中国語で通訳)、その後、話者情報票を記入してもらった。中国語での説明では、学生の中で最も日本語ができる日本滞在経験もある学生に通訳を依頼し、日本人の日本語教育担当教員にも補助していただいた。

なお、次の(2)に説明する「回答記入調査票」(調査データとして一部後掲)も同様の話者情報記載欄が設けてあり、それを同時に配布したが、こちらの記載を先にし終えて、上記「話者情報記載票および調査手順解説」の話者情報欄の記載は略してしまった話者も多かった(両方への記述を明確に指示すべきであった)。

(2) 回答記入調査票 (後掲、教室内の座席実尺配置縮小図、縮尺50分の1図付き)

回答記入調査票(調査票)は、高橋調査法の様式に倣ったものである。その上部の記入欄はやや詳しく補足してある。また、その下部の教室配置図は、実際の教室での机・椅子配置に縮尺を合わせて図示してあるものである(そのように現地で直前に現場を見てから作図するため手書きであ

(10)

る)。教室の机・椅子の配置や机間の距離は、前日のうちに会場にて、後で図上で縮尺計算しやすいように(5cm, 10cm 単位で)計測しながら配置し(その後に、回答記入調査票=教室内配置図付き=を作成しコピーしたものを使用)、翌日も距離や配置間隔を再度確認したものである。

配置における机間、椅子間の距離なども、縮小作図しやすいように、また、結果の■指示領域図(◆図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)の作図作業がしやすいように、比率の求めやすい5cm ないし10cm 単位での配置を取ったものである。調査票内にも、実際の長さ・距離を記載してある。

以下、配置を説明する。

- 座席は、横8列(2名掛けの4列)、縦7列(一部8列)。座席番号は横・縦の列番号2桁で示してある。第1回目の聞き手(K地点、聞き手は安部担当)は32番、第2回目の聞き手(K)は45番である。なお、左列の机(2名掛け)部分は、今回の調査では使用せず着座していない。
- 教室 横 約7m、縦 約10.5m(前方と左右のスペースはおよそ後掲調査票の図の程度、後方のみその図よりも若干空間あり)
- 机 横120cm 縦50cm
椅子 横100cm 縦40cm(2席分続きの横長で背もたれがある木製)
- 机の前後間距離 50cm(椅子分40cm + 空間10cm)、中央の2列の机は実際には横に隙間無く直結(図では分かりやすいように若干隙間を描いている)
- 机の通路を挟んでの距離 50cm
- 回答者間の左右の距離 2名掛けの横長の木製椅子であったが、2人掛けの椅子における話者間の距離は約75cm(着座位置での頭上の中心部分での距離が約75cmになるよう、話者には多少椅子の外側寄りにそれぞれ着座してもらった)
- 回答者の前後の距離は1m(机50cm、椅子40cm、椅子の後部空間10cm)

調査結果の指示詞の使用範囲分布図 (=■指示領域図) 作図上の説明

- ◇回答記入調査票上における 2cm が、実際の現場での 1m に相当するように図示されている (後掲参照)
- ◇作図では、図の椅子部分に記載した「・」点部分を話者の中心と見なして、その距離を計測してある。
- ◇回答記入調査票の 2cm が現場での 1m に相当するので、椅子上に「・」で示した話者の中心位置によって、後掲する■指示領域図 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) を直接作図していくと (高橋調査法の方法)、■指示領域図上の 2cm が現場での 1m に相当する縮小図がそのままできあがる。そのように、計算しやすい縮尺で調査記入票の教室図は (高橋調査法の指示に従って)、描かれている。
- ◇調査票は、聞き手 32 番、聞き手 45 番の 2 回の調査用に、一人当たり 2 枚分印刷して準備してある。
- ◇なお、以下の 1 点のみ、縮尺図の方の記載ミスがあったことが調査後にわかった。その誤差は、結論のみ先に記せば、右 1 列の 4 名の回答 (全て) について、実測に対して常に 10cm (図上で 2mm) だけ、話し手側に近いかたちで作図されてしまった計算になる。具体的には、回答記入調査票の右側 2 列 (1 列目 2 列目、番号では 10 番台、20 番台) に着座した 2 名 (3 分法の場合) の回答が、実測距離上すべて 10cm だけ、話し手に近くなる作図になった。全体の傾向を把握する上では、人数的にも (21 名中 2 分法の 4 名も合せてこの 2 列の回答の計 6 名のみ)、距離的にも (10cm) 軽微な誤差の範囲と解釈されるが、この点、ご了承ください (原因と詳細は安部・高木 (2015.3) 注 1 参照)。

(3) 回答における語形記載法

中国語では、方言音声の文字記載には日本語と同様に、一般的に正書法はない。回答記載においては次のように指示し、各自が近いと思う範囲で、

pinyin 表記に“倣って”記載してもらった。すなわち、各自の方言音声（声調も含め）を内省しながら、普通話におけるピンイン表記方法を参考にしつつ、各自の方言音の実際の音を、もっともよく表していると思われる表記で記載してもらった。

実際には、かなり迷いながら記載する学生もあり、中にはピンイン表記というより発音記号を意識して記載していると思われる学生もいるように思われた（ei と ai の表記の弁別など）。母音（韻母）や声調については正確な音価（発音表記）というには課題があることは承知している（声調の内省も時に難しい）。その意味では比喩的に言えば、日本語方言話者がローマ字表記で、無理をおして母語方言音を書かせられているような水準とも言えようか。しかし、実際の回答やこれまでの経験からも、異なる指示詞であれば、語形か声調でそれらの相違は自覚できていると観察され、異なる音声は区別して記載していたので、声調でも母音でも学生は何らかの書き分けを行うことができていた。それゆえ、各指示詞間の弁別自体はなされておらず、指示語の体系を判断し得るデータであると考えられる。

(4) 回答の語形と指示詞体系の分類

話者の指示詞の語形は方言ということもあって様々で、語形ないし語形数が同じでも、語の使い分けも多様である。同じ語形に見える語でも、使われ方（距離や範囲）も異なることがある（表1「話者情報と回答語形」参照）。

本稿では、語形の現れ方にも着目するが、考察の焦点は現場指示の用法の体系であるので、語形そのものの相違よりも2語体系か3語体系か4語体系かという空間区画システムと、それぞれの中での空間の区分の仕方（距離のとり方）にある。それゆえ、回答の分類と指示領域図の作成も、語形の相違ではなく2分法か、3分法、4分法かという点から行われている。

なお、対象語形は「(コ・ソ・ア) の (人)」の「の」にあたる「ge, go, gou, ye, etc.」は原則として考察対象外としている（表1では回答者

の調査票記載のままにそれらを残してある)。

2.4 話者情報

今回の調査における3分法と解釈された話者の言語履歴は、表1の通りである(使い分けの3パターン、および、その中を地域(市)別で分類)。なお、個人情報の関係で氏名欄を一部略している。この範囲での話者情報を開示することについては、話者からの了解を得ている。理解と協力に改めて感謝申し上げたい。

陝西省には、2分法および3分法の用法共に確認できる。中国語の普通話(北京官話系)とほぼ同様の2分法も確認できるが、一方、先行研究の指摘のように、3分法の用法も広く確認できた(11名)。また、その3分法には、指示語の使い方と距離からみて、3つのパターンが認められた(4分法かとも疑える例も含め紹介する)。聞き手の立つ位置毎(32・45番)に指示領域図を示し、指示詞の分布傾向を簡潔に報告していくこととする。

なお、参考まで、使い方が異なる3パターンから数名ずつ回答記入調査票を本稿の後に掲載しておいた(氏名抹消)。

3 調査結果 (3分法の報告)

3.1 距離的使い分け別に見た3パターン

3分法と解釈できた話者は、21名中11名である。陝西省の指示詞の用法は、どの回答も話者(話し手:H)からの距離による使い分けである。日本語のソ系に見られるような対者(聞き手)近辺を指すような相対的使用法は見られず、その意味では絶対的距離用法と言える。(なお、中距離にある2つ以上のものに対して見られる対比的比較用法の場合には、絶対的距離ではなく、言わば比較相対的距離感による「近称と中(遠)称間」

(14)

ないし「中称と遠称間」での使い分けが認められる)。それゆえ、以下の分類や説明、また作図においても、話し手(=学生、図中のHの位置)と聞き手(=聞き手=調査者安部、図中のKの位置)との距離による分類は行わなかった。

また、語形から見て、3分法(の特に遠称・遥称の語形)において、起源的には2分法用法からの派生と解釈できそうなものも含んでいるが、その場合でも単純に2分法とはせず、その語形と用法を考慮して分類をし、必要に応じて説明を加えた。話者情報と回答語形の詳細は話者一覧表(表1)を参照されたい。

その回答語形の使い分けを、指示する領域という観点から見ると次の3パタンの相違が認められた。以下、この3パターンにおおむね従って解説していくことにする。

- (1) 3分法Ⅰ型 7名(近中遠タイプ:教室内の距離で3語形が現れる)

■指示領域図3-I a・b参照

- (2) 3分法Ⅱ型 3名(近中+遥タイプ:遠がやや遠くを指し、教室内には現れない) ■指示領域図3-II a・b参照

- (3) 3分法Ⅲ型 1名(近中遠遥タイプ:4分法と見られるタイプ) ■指示領域図3-III a・b参照

3.2 話者11名の3パターン別出身地

その11名の出身地は、上記3パターン別に市名毎に分類すると以下の通りである。

- (1) 3分法Ⅰ型(近中遠タイプ:教室内の距離で3語形が現れる)

陝西省宝鶏市眉県湯峪鎮

陝西省安康市漢陰県酒店鎮新四村

陝西省西安市長安区韋曲鎮

陝西省西安市戸県五竹鎮新生勝庄村

陝西省西安市蓮湖区中堡子

陝西省咸陽市旬邑県鄭家鎮高家湾村（咸陽市にはⅡ型も見られる）

陝西省商洛市洛南県保安鎮

- (2) 3分法Ⅱ型（近中+遥タイプ：遠がやや遠く教室内には現れない）

陝西省咸陽市涇陽県齊家寨村

陝西省咸陽市三原鎮

陝西省銅川市印台区陳炉鎮馬家科村

- (3) 3分法Ⅲ型（近中遠遥タイプ：4分法かと思られるタイプで、教室内に4語形が現れた）

陝西省漢中市南鄭県梁山鎮

3.3 語形の解説

3.3.1 近称語形（「这」）

近称の語形は、以下の通りである（表1からその掲載順に、聞き手位置32番での回答で記載）。全体として、中国語北京官話系の普通話の「这(zhe)」とほぼ同じか、その方言形(zheiなど)と見なし得る語形である。語形の若干の相違は、学生が各自の方言音声を内省して文字化したことによる解釈および各自の表記法の相違、ないし、実際の方言的相違によるものも含む、と解釈される範囲である（以下同様）。

- (1) 3分法Ⅰ型（近中遠タイプ）：
- zei4
 - zhi
 - zhi1
 - zhei4
 - zhei4
 - zhi4

(16)

表 1 中国陝西省 指示代名詞 (現場用法)における 3 分法の回答 (話者の表記による語形) (安部)

連番	指示詞用法	整理番号	型	④の語形の解釈	氏名 日本表記	氏名 簡体字	氏名 pinyin	出生地 (住所) 日本語表記
1	3分法	3-I-①	I型	(4分法か?)	宋 潔	宋 洁	song jie	陝西省宝鸡市眉 县湯峪鎮
2	3分法に分類 (◆回答 図参照)	3-I-②	I型	◆日本語のア系の 距離に現れる。2分 法の安康市の5名 とは④の語形の分 布範囲 (逸称) が 明らかに異なる。④ は②の派生形。	王 小芳	王 小芳	wang xiaofang	陝西省安康市漢 陰縣酒店鎮新四 村
3	3分法	3-I-③	I型	説明的か、②に同 じ	孫 一迪	孙 一迪	sun yidi	陝西省西安市長 安区韋曲鎮
4	3分法	3-I-④	I型	説明的か	吳 晶	吴 晶	wu jing	陝西省西安市戶 县五竹鎮新生勝 庄村
5	3分法	3-I-⑤	I型	③の wei4 の派生 形	王 鑫	王 鑫	wang xin	陝西省西安市蓮 湖区中堡子
6	3分法	3-I-⑥	I型	3語形	蘇 敏	苏 敏	su min	陝西省咸陽市旬 邑縣鄭家鎮高家 湾村
7	3分法	3-I-⑦	I型	3語形	殷 珍珍	殷 珍珍	yin zhenzhen	陝西省商洛市洛 南县保安鎮
8	3分法	3-II-①	II型	③に同じ (または 説明的語形)	馬 丹	马 丹	ma dan	陝西省咸陽市涇 陽縣興隆鎮齊家 寨村
9	3分法	3-II-②	II型	②③の派生形 (2 分法からの派生 か?)	王 家敏	王 家敏	wang jiamin	陝西省咸陽市三 原鎮
10	3分法	3-II-③	II型	3語形	張 紅	张 红	zhang hong	陝西省銅川市印 台区陳炉鎮馬家 科村
11	3分法 (4 分法?)	3-III-①	III型	4つ共別語形、4 分法と見なせるか	龔 倩倩	龚 倩倩	gong qianqian	陝西省漢中市南 鄭縣梁山鎮

					回答のまま ge 等を付 したまま記載する。		■は左側の語形と同語形				
生年月日	性別	型	席	① (近称)	② (中称)	③ (遠称)	④ (遠称) ずっと遠くの あの～	父 出生地	母 出生地	母方言に 対する各自 の内省	
1993/6/27	男	I	16	zei4 ge3 (k45 では zei4 gei3)	wei4 ge3	nai4 ge3	wa3 wei3 ge3 (②の 説明型?)	陝西省宝 鶏市眉県	陝西省宝 鶏市眉県	眉県方言	
1994/6/5	女	I	31	zhi go	nie4 go	■ nie4 go	nie bian nie go (②の派 生説明型)	陝西省安 康市漢陰 県	陝西省安 康市漢陰 県	安康市漢陰 県方言	
1994/8/18	女	I	35	zhi1 ge	wu1 ge	wei4 ge (k45 では wei1 ge)	lao3 yuan4 / wu1 ge (② の派生説明 型)	陝西省西 安市	陝西省西 安市	長安方言	
1992/9/14	女	I	37	zhei4	nei4	wei4	lao3 yuan3 (説明型)	陝西省西 安市戸県	陝西省西 安市戸県	西安市戸県 方言	
1992/5/28	女	I	51	zhei4 ge4	wo4 ge4	wei4 ge4	wei4 i4 bang3 ge4 (③の派生説 明型)	陝西省西 安市	陝西省安 康市	西安方言	
1991/9/28	女	I	55	zhi4 ye4	wu1 ye4	nei4 ge4	(記入語形ナ シ)	陝西省咸 陽市	陝西省咸 陽市	咸陽市旬邑 県方言	
1994/8/12	女	I	64	zhei4 ge	wei4 ge	wu ge	(記入語形ナ シ)	陝西省商 洛市	陝西省商 洛市	陝西省商洛 洛南方言	
1994/12/30	女	II	44	zhei4 ge4	wei4 ge4	nai4 ge4	yuan3 hen4 nai4 ge4 (③ の派生説明 型)	陝西省咸 陽市	陝西省商 洛市	咸陽市涇陽 県方言	
1992/8/1	女	II	67	zhei4	wei4	wei1 da (②の派生 形)	wei1 da da2 (②の派生形)	陝西省咸 陽市	陝西省咸 陽市	陝西省咸陽 市方言	
1992/2	女	II	14	zhi4 ye3	wu4 ye3/ wei4 ye3 (*語形 の相違は 表記法に 迷ったも のか)	記入語形 ナシ (① ②④の語 形の3分 法と解釈)	nei4 ye3 (①②とは異 なる)	陝西省銅 川市	陝西省銅 川市	陝西省銅川 市印台区方 言	
1994/10/12	女	III	33	zhi2 ge4 (k45 では zhi4 ge4)	wu4 ge4	na4 ge4	nie4 ge4 (①②③とは 異なる)	陝西省漢 中市	陝西省漢 中市	漢中市南鄭 県方言	

(18)

zhei4

(2) 3分法Ⅱ型 (近中+遥タイプ) : zhei4

zhei4

zhi4

(3) 3分法Ⅲ型 (近中遠遥4分法タイプ) : zhi2

張・張 (2007b) での陝西省は、近称が「这」になる2分法の類型に属しており (◆図3参照)、今回の上記の結果もそれを裏付けている。

3.3.2 中称語形 (「乜」「兀」「那」)

「中称」の語形は、以下の通りである。(表の順番ではなく語形の類型によって示す)

(1) 3分法Ⅰ型 (近中遠タイプ) :

① nei4 (普通話の「那」に相当)

② wei4, wei, wu1, wu1 (兀)

③ nie4 (乜)

④ wo4 (兀)

(2) 3分法Ⅱ型 (近中+遥タイプ) :

① wei4, wei4 (兀)

② wu4 (兀) (回答の「wei4」は「wei4」と同様と解釈されるので、この話者は「wu4, wei4」の2つの語形 ((1) I型に示した② wei4 と④ wo4 の両方) を中称に当てているものと解釈される)

(3) 3分法Ⅲ型 (近中遠遥4分法タイプ) : wu4 (兀)

I・II・IIIにおいて、中称の回答で一番多いのは、wei4 (4名) であり、3パタンドの話者にも共通して現れているのは、wu4(wo4も同類と見なす) の3名である。このwei4と、wu4/wo4が同源関係の方言異音かどうかにか

については、次の解釈がある。

「兀」類は秦晋地域の西北官話と晋語に多く分布している。よくみられる発音は [u] である。その他の語音形式には [uəʔ]、[vəʔ]、[uɔ]、[uæ]、[væ]、[uei]、[vei] などがある。(張・張 (2007b) により邦訳) 仮に、同源であれば (推定祖語形 [*uə4])、これが一番多く共通する中称語形と見ることもできる。

3.3.3 遠称、および、「遥称」(仮称) 語形 (「兀」「那」「セ」)

ここでは、遠称と、「遥称」(仮称) とを一緒に扱う。

ここで「遥称」と仮称したのは、調査において「もっと遠くのアノ (人)」という場合に使用する語形に対して、回答があったものを指す。これは、これまでの中国語の調査経験から、より遠くにあるものに対して異なる語形を当てることが確認できたために加えてみたものである。遥称の多くは、よく見えないものであるか、対象物が何であるか認知しにくいものを指すことが多いようである。ただし、回答の状態は様々で、③の遠称欄に、②中称と同じ語形を記載してあるのに、④に別の語形を記載している事例も見られた。このような場合は、4 語形が使用されているのではなく 3 つの語形による 3 分法と解釈される。そのように、④の遥称欄での記載の有無だけでなく、全体の使用状況を調査票 (教室配置図への回答記載) で確認して分類を行った。

さて、ここで③遠称と④遥称を一緒に扱うのは、回答において③に記載がなく④に回答があったり、③は②中称と同じ語形で④に別語形の記載があったりしたためである。遠称と遥称の回答欄に記載された語形を一緒にして分類すると、およそ以下のような 2 類型が見られるようである。(なお、遠称・遥称を区別しての体系的分析は、3.5 で取り上げる。)

- ア na 系統語形 (那系) ——nai4, na4 ——普通話の「那」の方言語形か?
- イ ni 系統語形 (尔系) ——nie4, ——張・張 (2007b) を参考にすれば、

「尔」の方言形と見られる。

ウ w系統語形(兀系?) ——wa3, wei3, wei4, wei1, および, wu1, ——これらが同源の方言異音であるかはいま確認が不十分であり, 今後の検討を要する。張・張(2007b)を参考にすれば, このうち, wu1は「兀」に該当するか?

なお, ④に現れる「lao3 yuan4」, 「yuan3 hen4」など, 「遠」を含む語形は説明的語形(「老遠」などで「老」は「とても」の意)と言えるものであるので, 指示語としてはひとまず除外する。

3.3.4 張・張(2007b)における3分法の中称・遠称の語形とその分布
張維佳・張洪燕(2007b)には, 中国の3分法における中称と遠称の語形の類型が地図化されている(◆図3・4・5参照)。そこでの語形と分布を確認し, 今回の調査と比較しておくことにしたい。

さて, それによれば, 陝西省の3分法と東隣の山西省の3分法とでは, 近称は共に普通話と同形の「这」であるが, 一方, 中称と遠称の語形が「那」と「兀」であるが逆転している体系であることがわかる。また, 陝西省の2分法のうち3分法とも見なし得た話し手位置46番の「陝西省榆林市吳堡県宋家川鎮」の位置は, 省の境界を挟んですぐ東隣に山西省の3分法が分布していることが, これら◆図1や◆図3~5からもわかる。3分法と解釈しなおすか, 何らかの関連性を考慮しておく必要がある。

□話し手位置46番の語形(*「陝西省榆林市吳堡県宋家川鎮」)

zhei4 ge4 ⟨zhe4 er⟩ ⟨⟩内は話者情報票 (その前は回答調査票)	nei4 ge4 ⟨ne da xie⟩	■ nei4 ge3 ⟨nei4⟩	⟨ke1 yuan3⟩ (k45では ne4 er)
---	----------------------	-------------------	-------------------------------



汉语方言三分系统近指词形类型分布图 (張維佳・張洪燕 (2007b))

◆图3 中国語方言の指示詞の3分法における「近称」語形の類型とその分布



汉语方言三分系统中指词形类型分布图 (張維佳・張洪燕 (2007b))

◆图4 中国語方言の指示詞の3分法における「中称」語形の類型とその分布



汉语方言三分系统远指词形类型分布图（張維佳・張洪燕（2007b））

◆図5 中国語方言の指示詞の3分法における「遠称」語形の類型とその分布

3.4 3分法の用法の比較と体系

11名の回答語形の現れ方を比較してみる。11名の回答語形のみを抜き出したのが、◆表2である。上記同様、I・II・III型を順に概観する。

3.4.1 I型（近中遠タイプ）

3.4.1.(1) II型の体系

I型は、①②③の3つの回答語形が、調査票の教室内の距離にすべて使用し得るという点で共通する（31番については後述のように、①②④での回答語形が使用される）。その3語形の使い方も、②の中称が距離によるという点を踏まえれば、日本語のコ・(ソ)・アの距離に近似している。

また、31番を別とすると、④の語形が、以下のいずれかのパタンのも

表 2 3分法話者 11名の回答語形

分類型	席	① (近称)	② (中称)	③ (遠称)	③の漢字	④ (遠称) ずっと遠くのあの～	④の漢字
I	16	zei4 ge3 (k45 では zei4 gei3)	wei4 ge3	nai4 ge3	那个	wa3 wei3 ge3 (② の派生説明型)	哇兀个
I	31	zhi go	nie4 go	■ nie4 go	七个	nie bian nie go (② の派生説明型)	乜边乜个
I	35	zhi1 ge	wu1 ge	wei4 ge (k45 では wei1 ge)	兀个	lao3 yuan4 / wu1 ge (②の派生説明型)	老遠 / 兀个
I	37	zhei4	nei4	wei4	兀	lao3 yuan3 (説明型)	老遠
I	51	zhei4 ge4	wo4 ge4	wei4 ge4	兀个	wei4 i4 bang3 ge4 (③の派生説明型)	兀伊帮个
I	55	zhi4 ye4	wu1 ye4	nei4 ge4	那个	(記入語形ナシ)	×
I	64	zhei4 ge	wei4 ge	wu ge	兀个	(記入語形ナシ)	×
II	44	zhei4 ge4	wei4 ge4	nai4 ge4	那个	yuan3 hen4 nai4 ge4 (③の派生説明 型)	遠遠 / 那个
II	67	zhei4	wei4	wei1 da (② の派生形)	兀搭	wei1 da da2 (②の 派生形)	兀搭搭
II	14	zhi4 ye3	wu4 ye3/wei4 ye3 (* 語形の 相違は表記法に 迷ったものか)	記入語形ナシ (①②④の語 形の3分法と 解釈)	×	nei4 ye3 (①②とは 異なる)	那也
III	33	zhi2 ge4 (k45 では zhi4 ge4)	wu4 ge4	na4 ge4	那个	nie4 ge4 (①②③と は異なる)	七个

のである。

○④に該当する回答がないもの (55, 64 番)

○④の回答語形は、指示詞専用語形というより説明的表現になっているもの (37 番 lao3 yuan3 = 「老遠」は「とても遠い」)

○④の語形が②ないし③の語形を元にした派生的説明型のもの (上記以外の 4 名)

7名の①②③語形それぞれは、話者の生育地が地理的にも広い (遠い) こともあり、共通するパターンが見出しにくい。方言差がそれだけ大きいということである。西安市の 35 番, 51 番には声調を除外すれば以下の共通性 (というより類似性) が見られるようにも見えるが、声調が①②とも異なっている点は無視できない。

35 番	=近：zhi1	中：wu1	遠：wei4
51 番	=近：zhei4	中：wo4	遠：wei4

3.4.1.(2) 31 番の回答について

座席番号 31 番は、3 分法か 2 分法か迷った事例である。回答語形を見ると、③は②と同じであり、④は「nie bian nie go」であり、②の語形「nie (go)」を含んだ説明的語形になっている（いま推察であるが、② nie (ソ) の辺りのソレのような意味か）。これを、②をもとにした派生説明型とみなせば、指示語としての専用語形は、①②の語形 2 つでの使い分けということで、2 分法とみなすことができる。

一方、調査票に記載した教室での使い方の方を見ると、①②③の語形（表現）を使い分けている領域は、他の 3 分法とほぼ同じような 3 区分を確認できる（後掲の I 型の各調査票を比較参照）。2 分法の話者 10 名にはこのような 3 領域での使い分けは見られなかった（安部・高木 (2015.3)、2 分法とも見なしがたい。今回は、語形が一応別に記載されていることと、2 分法 10 名との明瞭な使用範囲の相違から、3 分法の中で検討することにしたものである。

I	31	zhi go	nie4 go	■	nie4 go	nie bian nie go (②の派生説明型)
---	----	--------	---------	---	---------	---------------------------

一方、全体の分類の後で言語地図を作図してみると、指示詞体系の分布を言語地図化した◆図 6-(1)のようになり、この 31 番の生育地（安康市漢陰県）は 2 分法の領域にあたるのがわかる（張・張 (2007b) の◆図 1 でも 2 分法の領域）。この点を考慮すると、2 分法と見なす方がふさわしかったのかもしれない。あるいは、2 分法話者の調査回答とは明瞭に異なる点を重視すれば、指示語形は 2 分法であるが、周囲の地域や若い友人などの影響もあって、中称での語形を工夫して 3 分法的に使い始めているというような、2 分法から 3 分法への過渡的状况を示している話者である可

能性も残されていようか。そのような点でも、貴重なデータであるので、あえて3分法の中で論じておくことにした。

3.4.2 II型（近中+遙タイプ）

3.4.2.(1) II型の体系

座席番号44, 67番（この2名は咸陽市）と、14番である。I型とは異なる特徴は、教室内程度の距離（横7m, 縦10.5m）では遠称が現れず、教室外のかかなり遠い範囲（後述）に遠称語形が使われる点である。

近称と中称は、以下の語形で3名とも共通していると解釈でき、また、44番と14番とは遠称も同語形の異音とみなすことができるようである。

近：zhei 4, 中：wei4, 遠：*nei4 (nai4)

（注：14番は、wei4がこの中称に該当する。）

つまり、44, 14番の共通性から見ても、この3語形体系が、II型の語形と解釈される。さらにこの3名の回答の関連性と体系の共通性とは、その出身地の地理的近接性からも裏付けられる。

すなわち、この3名は、表1の通り（また後掲の言語地図◆図6(1)も参照、地図の西安市北側の○の3箇所が該当する）、順に咸陽市涇陽県、咸陽市三原鎮、銅川市印台区で、地理的に隣接している。この地域一帯ではI型の地域とは用法が異なることを示しているとみなせよう。この点も、張・張（2007b）にはない新たな指摘である。

3.4.2.(2) II型の特徴（14番の個別調査での聞き取りから）

この3名のうち、たまたま前日に14番の張紅氏に個別調査を行っていたので、以下、その時の聞き書きを簡略に紹介し、その特徴を解説しておく。そこからこの遠称（遙称と呼ぶ方がふさわしい）の特徴が把握できる。

○(④の語形の距離について) nei4 [nai] (④) は、ずっと遠くのを差し、見える範囲のものは、ほとんど差さない。調査教室内程度の距

離のものは、すべて wei [wai] (wei と回答記載) である。nei4 は、窓の外の物でも、外に見える建物のさらに後ろに、隠れて少し見えるようなものを指す。中庭の向こう側に、全体が見えた建物すら wei4 (中称) 語形で言う、という。(ほとんど「nei4= ずっと遠く (遥称)」といえようか。)

- (②に記載した2つの語形は地域の方言異音形であることについて) 周辺は村によって語形が異なり、近隣の耀州区では wu4 ye3 を使う人が多いが、この語形は自分(張氏)の村でも使う。自分も使うことがあるので、両方回答した。

なお、3名のうち、張氏だけが、③の欄に記載をせず空欄にしながら、④の欄に記載したのは、前日の個別調査をした際に、上記のような詳しい内省を求めていたために、自分の nei4 がいわゆる遠称の日本語的アレの範囲ではなく、かなり遠くを指す用法である、ということに自覚したためと推察する(個別調査は、日本語学科学学生であるので日本語で行っている)。

この張氏の回答状況と、上記のような地理的な近接性から推定して、少なくとも3語形のパターンが同じであった44番の話者の3分法の用法(③の語形)も、張氏と同様のものと推定された(張氏については、氏名を出すことを了解頂いている)。

3.4.2.(3) 67番の用法(2分法の派生型か?)

67番の③④の回答語形は、声調をいま別にすると、②の wei を基にして da を追加した表現になっている。声調のみを変えて、距離を変えるのは他の方言にも見られる。

近 : zhei4	中 : wei4	遠 : wei1 da	遥 : wei1 da da2
-----------	----------	-------------	-----------------

→ 中 :wei = X , 遠 : X + da, 遥 : X +da da2

このように解釈すると、2分法とみなすべきかもしれない。一方、wei の声調がやはり異なる点を重視すれば、

近：zhei4 中：wei4 遠：wei1 da

(遥称は、③遠称の強調形 = wei1 da + da2)

という3分法と解釈することもできる。今回は44番と同じ咸陽市ということと、14番とも地理的に近接するという理由などから3分法に分類したものである。

3.4.3 Ⅲ型 (近中遠遥タイプ)

回答語形は、次のように、4つともまったく異なる。

近：zhi2 ge4 中：wu4 ge4 遠：na4 ge4 遥：nie4 ge4

(k45では近：zhi4 ge4)

④の語形もまったく異なるので、4分法とひとまず解釈しておく。(この話者には個別調査は行っていなかったので詳細は未詳である。)

3.5 指示領域図から見た3分法の特徴 (Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型)

次に、高橋調査法に従って作成した指示領域図を示してその特徴を解説する(2分法の指示領域図は安部・高木(2015.3)参照)。Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型に分け、それぞれを聞き手の立つ位置毎(番号32・45)に作図したのが、■指示領域図Ⅰ a・b、■指示領域図Ⅱ a・b、■指示領域図Ⅲ a・bである。aが聞き手の位置が32番、bが同じく45番の位置のものである。

3.5.1 3分法Ⅰ型 (近—中—遠タイプ) ——■指示領域図Ⅰ a・b参照

7名の回答者に共通した分布パターンが見られた。■指示領域図Ⅰ a・bのようになる。

近称の範囲は、a・bに共通して話者からほぼ2m強とみなすことができる。この距離2mは、2分法における近称の2mとほぼ同じである(安部・高木(2015.3)の■指示領域図参照)。なお、近称では、話し手から見て聞き手方向(これを正面方向とする)でも、その側面方向、背面方向でも

差がほとんど見られないようである。

中称の範囲は、聞き手の方向（正面方向）でほぼ2～4m強、側面方向では3～4m程度と見られる。2m以内にはあまり現れない傾向がある。

遠称の範囲は、同じく正面方向において、3mから始まり4m以降はほぼ遠称の領域になる。側面ないし背面（真横より後方）方向ではa・bとも、2m強程度から遠称の出現を確認することが出来る点は、興味深い。つまり、正面方向は近称・中称の範囲が広く、側面・背面ではそれらが狭くなり遠く感じるということを示している。

3.5.2 3分法Ⅱ型（近一中—遙遠タイプ：遠がやや遠いタイプ）——

■指示領域図Ⅱ a・b 参照

3名の回答者に共通した分布パターンが見られた。■指示領域図Ⅱ a・bのような分布である。上記のように、語形自体は多少異なるようにも思われた3名であるが指示領域図では共通性が高かった。

近称は話し手から2m（強）の範囲という点は、Ⅰ型、および2分法と共通している。この点は、いずれでも正面方向、側面、背面方向での差がほとんど見られないのは興味深い。つまり、近称の領域は、分類体系や、近称以外の使い分けの相違に関わらず一定していることを示唆している。

中称は、ほぼ2m以遠、教室全域に使用される。一方、2m以内にはあまり現れない傾向がある。

遠称の語形は、教室内部（横7m、縦10.5m）の範囲には、3名とも現れてこない。どこまでが中称で、どこから③の遠称語形の領域になるか、はこの調査では不明であるが、3.3.2. (2) で紹介した張紅氏の個別調査による回答が参考になる。すなわち、Ⅱ型の③の語形の領域は、距離的にはかなり遠方の範囲を指すと推定される。

3.5.3 3分法Ⅲ型（近—中—遠—遙タイプ：4分法にも見えるタイプ） ——■指示領域図Ⅲ a・b 参照

Ⅲ型は、4語形の回答があった話者である。④の「ずっと遠くのアノ(人)」にも他の回答語形とは明らかに異なる語形が記載されていたものである。この語形が、指示代名詞的語構成のものなのか、何らかの語形の援用用法なのかは、調査時点では気づけなかったもので、詳しい分析は後考を期したい。中国語方言には4分法の報告もあり、執筆者も広東省で確認しているが、陝西省に関しては未確認であるので、ここではひとまず3分法として分類し、別に扱っておくことにした。

1名であるため、■指示領域図Ⅲの a・b に示したように、教室で指し示した他の学生の座席配置状態そのままの指示領域図（長方形の分布模様）になる。

近称は、ここでも聞き手位置 a・b に共通してほぼ 2m の距離で現れている点は興味深い。

中称は、近称の外側に現れる点もⅠ型・Ⅱ型と同じであるが、回答数が少ないのでその範囲は不明である。

遠称と遙称も回答地点数が少ないこともあって、その相違が不明瞭であるが、以下のような傾向を認めることができる。即ち、遠称(△)は中称よりも遠くを指す傾向が認められるか(■図Ⅲ a = 聞き手 32 番)、中称と多少重なりながらもやはり中称よりは遠方を指している(■図Ⅲ b = 聞き手 45 番)ことが確認できる。

遙称と仮称した④の語形(★)は、■図Ⅲ a でも■図Ⅲ b でも、話し手(H)から最も遠い位置になる教室のはずれの座席の学生に対して現れている(聞き手 32 番では 3 箇所、同 45 番ではそれに 1 箇所加わるがやはりそれに次ぐ遠方)。その点から推して、④の語形は、4 番目の語形と言っても、Ⅱ型で見たような教室外のずっと遠くのもの指す遙称なのではない。あるいは、“周辺や端にある事物”を指す特別の用法なのかもしれない。

い。少なくとも、このⅢ型における③と④の語形は、Ⅱ型の③の語形とは、3番目(4番目)の遠方を指示する語形とは言っても、指示する領域がまったく異なっていることがわかる。

このⅢ型の話者の傾向は、帰国後に資料を整理してわかったもので、現地での個別調査の対象(この集団調査の前日が個別調査日)とはなっておらず、詳細を追跡調査することはまだ出来ていない。

なお、この33番の話者の③④の語形の回答には、以下のような未解決の課題があることを付記する。それは、実は実際の回答票では、③と④の語形の回答位置は表1に記載したものと反対であったということである。即ち、表1の④の語形は実際には「アノ」の③の回答欄に、③の語形は「ずっと遠くのアノ(人)」の④の回答欄に記載されたものである。それをあえて逆に整理し、図示したのは、指示領域図の下書きを行った段階で、③の遠称の語形の方が■指示領域図Ⅲ a・b 共に、④の語形よりも遠くに(教室の端)使用されていることが分かったためである。つまり、■図Ⅲ a・b での★が③の回答語形の位置ということになり、④の語形(△)よりも明らかに遠方ないし周辺を示しているのであった。この③と④の語形の使い分けについても、現時点では今後の課題ということになる。(調査では、①②③④の語形を記載してもらう前に、おおよその距離的説明を日本語と中国語とで口頭でも行っており、また、日本語が分かる日本語学科の学生であるので、日本語のコノ・ソノ・アノ(人)に該当するような語形、および、「(アレよりも)ずっと遠くにいる『ずっと遠くのアノ(人)』という場合の言い方が別にあったら回答して下さい。」と指示してあるものである(調査時の解説指示書は、安部・高木(2015.3)掲載を参照)。

I・II・Ⅲ型に共通して興味深いのは、近称と中称の領域の重なりが少ないのに対して、中称と遠称との領域の重なりは比較的広いという点である。要するに、自分の領域としての「近称」は比較的明確に中称と区別(認

知) されやすい, ということを示す傾向と解釈できよう。

4 陝西方言における 3 分法と 2 分法の地理言語学的解釈

4.1 3 分法の地理的遍在の特徴

3 で紹介した 3 分法の 3 つのパタン, および, 2 分法(安部・高木(2015.3)) の話者の出身地(表 1)を言語地図として示したのが, ◆図 6-(1)「中国陝西省の指示代名詞類型分布地図」である。

話者の生育地の地名がこの地図上にあれば, 地名を四角枠で囲み, その傍らに話者の座席番号を付した。話者の座席番号は, 3 分法は四角□枠で囲み, 2 分法は丸○枠で囲み, 4 分法とした 33 番(南西部)は亀甲◇で囲んである。北部の 46 番は 2 分法とも 3 分法とも判断しがたかったので○と□2 つの枠で記載してある。中央の西安市の南北に示した 2 本の境界線(矢印「→ — ←」)の間が, おおよそ張・張(2007b)で示されている 3 分法の領域であり, この中央部はいわゆるシルクロードの領域にあたる。そして, おおよそ南側の線以南が秦嶺山脈に連なる山岳領域となっている。

この図からは, 本稿で 3 分法に含めた 31 番(南側)は, 2 分法の範囲に属することがわかる。また, 北部の 46 番は, 安部・高木(2015.3)で 2 分法に含めたものの, 用法は 3 分法的であったものであるが, 東隣の山西省の 3 分法地域(張・張(2007b)の◆図 1 参照)に隣接している場所であることが, 今回の地図化により明確になった。

この◆図 6-(1)の西安市付近を拡大したのが, ◆図 6-(2)「中国陝西省の指示代名詞類型分布地図(西安市周辺拡大図)」である。西安市北部に, 二重丸◎を付して示した 3 地点が, II 型の話者の生育地である。連続して一定の領域にあることがわかる。

調査対象は, 3 分法 11 名, 2 分法 10 名, 計 21 名と決して多い話者数

ではなかったものの、そこには次のような一定の分布特徴が認められよう。

- ① 3分法は、西安を含む陝西省の中央部に分布する。その南北に分布する2分法の地域を分断しているような分布を示している。
- ② 3分法の分布地域は、張維佳・張洪燕（2007b）における中国全土の分布地図（◆図1）と照合すると、その陝西省における3分法の分布とほぼ一致していると思わせる。
- ③ 3分法の中にⅠ・Ⅱ・Ⅲ型とした異なる類型が認められた。
- ④ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ型の3つの異なる類型においても、地理的な偏りが認められる。特に、Ⅰ型とⅡ型は分布領域を多少異にしているものと解釈可能である。（Ⅲ型は1例のみなのでその解釈は仮説的である。）

2分法の分布については、安部・高木（2015.3）で下部「◇参考」欄のようにまとめているが、その結果とも併せて検討すると、次のような点も指摘できる。

- ⑤ 陝西省の2分法の用法は、その周辺地域とほぼ同じ類型であり、周囲の省の2分法と連続していると位置付けられる。
- ⑥ 陝西省北部（榆林市呉堡県宋家川鎮）の話者には3分法とも見られる回答があり、北東に隣接する山西省の3分法との関連性が注視される。（陝西省北部の2分法地域についても今後より多くの詳細な調査が必要となる。）

* * * * *

◇参考 2分法の分布特徴（安部・高木（2015.3）より）

- (1) 中国語陝西省方言の指示代名詞の現場指示用法には、省内の南と北に（3分法を挟む形で）ある程度の分布の偏在が認められる。
- (2) その2分法の語形類型は、張維佳・張洪燕（2007b）の調査結果と比較してみると、近称が「这」になる2分法の類型に属する。
- (3) その2分法の類型は、陝西省の周囲の省の2分法と連続していると位置付けられる。

- (4) 本報告によって、中国の研究である張維佳・張洪燕（2007b）の結果に対して、①陝西省の2分法の分布地域を新たに追加でき、②2分法語形の類型が周辺地域と同じ類型であることも、より明らかに示すことができた。
- (5) また、2分法における近称と中遠称との距離的使い分けは、近称が話し手の周囲ほぼ2mの範囲を指し、中遠称はその外側の範囲を指すという、話し手からの絶対的距離による使い分け法であった。

* * * * *

上記①②の点からは、3分法についての今回の調査と分類の示す内容が、妥当なものであることが裏付けられる。張維佳・張洪燕（2007b）と本稿での調査結果が、陝西省での3分法の分布特徴をほぼ十分に把握していることがわかる。本調査は、大学内で調査可能であった学生に限定された調査であったが、その出身地による分布の様相も、問題なく陝西省の特徴を反映するものと言えよう。その点から見て、3分法の3つのパターンについても（Ⅲ型が1名ではあるので今後の追加情報が課題であるものの）、特にⅠ型とⅡ型の分布地域の相違には、当該地域の一定の傾向が投影している蓋然性が高いと思われる。

次に、上記①の傾向を、地理言語学的に解釈してみたい。南北での同じ2分法の分布には「遠隔地連続の法則」が適応できるとするならば、かつては、この2分法が連続するものであり、3分法があとで、その間において割り込んで発生した可能性を示唆している。興味深いことに、その3分法の地域の中心部にある西安（旧・長安）は歴史的にも国際的大都市であり、多くの民族・民俗が流入し続けてきた土地である点が注目される。言語・文化・習慣の異なる多くの人々が常に交流、混在し、言語的にも複雑なコミュニケーションが盛んであったはずの大都市である。その点を重視して解釈を加えるならば、もともとは2分法地域だったものが、そのような

異なる方言や異言語における異なった指示語体系が混交したために、2分法よりもより使い分けの細かで複雑な3分法の用法が徐々に形成され、発達してきた可能性が考えられる。すなわち、この陝西省での分布に歴史的地理言語学的解釈を加えるならば、言語・文化的に多用な交流が行われた地域で、2分法から3分法への変遷が成し遂げられたという仮説が提示できようか。

4.2 『漢語方言地図集』(2008) との比較

この分布地図を、中国における最新の言語地図『漢語方言地図集 語法巻』(曹志耘：主編、2008)での指示詞と比較してみたい(◆図7-(1)(2)(3)参照)。この中国の言語学者による全土の詳細な調査と比較しても、本稿の調査が、特に陝西省中部の調査密度と精度において、それを補える内容を持つことがわかる。(日本人による調査でも、現地研究者の理解と学生の協力を得られることによって、十分な調査成果が挙げられることを示している。)

この◆図7の言語地図の調査密度は、張・張(2007b)や本稿での調査よりも低いものの、陝西省における3分法の領域という点ではほぼ一致していることがわかる。地点と密度の異なるこれら3種類の言語地図を総合することで、陝西省の分布状況がより鮮明に把握可能となる。

さて、3分法地点の語形の類型を、◆図7(1)「指示代詞的分類」と比較することで、本稿の表1の語形の類型をある程度整理でき、また、本稿のデータによって図7の語形よりも多様な方言異音の存在を知ることができる。図7(1)の◎(原版では赤の●印)は、「u | nɛ等」(|の左右は「中称 | 遠称」を示す)の語形であり、陝西省の中央部の西安付近とその東部に記号が3か所見られる。また、●(原版では赤の雨垂れ記号)は、「uei | nɔ等」(同上)である。これらと、「中称 / 遠称 (ないし 遥称)」の語形体系が類似するのは下記の座席番号の話者である。

◎ 「u | nɛ 等」——55 (wu1 / nei4)、14 (wu4 / nei4)、33 (wu4 / na4)
(これらの地点とはずれるか?)

④ 「uei | nɔ 等」——16 (wei4 / nai4)、44 (wei4 / nai4)、14 (vei4 / na4) (14は②で語形を2つ使用するので◎にも該当) (これらの地点とは西安の西部・北西部という点で近い)

④記号の地域とはほぼ一致しており、本稿の調査データの一定の水準を示していよう。◎の地域とは異なるようであり、話者の内省による記述の問題もあるが、◆図7から見てもわかるように、この地域の多様性とも見られる。

5 陝西方言の3分法の状況

以上、中国語における指示代名詞の地理的分布と歴史的変遷を解明するため、陝西方言における現場指示用法の現地調査の結果を報告した。本章では、その3分法用法を詳述すると共に、2分法の解釈(安部・高木(2015.3))とも併せて言語地図を描き、全体的に地理言語学的解釈を試みる。

今回の考察からは、3分法が内外の人的交流がきわめて活発であった国際的大都市部において新しく発生したかのような地理言語学的特徴を認めることができた。2分法地域の中における大都市部での3分法の発達という事例の場合は、新しい混交用法としての発達である可能性を示唆している点で、極めて興味深いものとなった。

ただし、以下の点において、歴史的大都市である西安には、考慮すべき課題が残されている。

○周辺地域における中国語(漢語)以外の言語(少数民族の言語の指示詞の体系など)の影響については、まだ考慮されていない。西安は、歴史的に周辺の言語の影響も見られるので、その影響を考察してい

く必要がある。

- 西安における過去の文献資料での調査と比較する必要がある。今回はそこまで考察が及んでいない。
- この西安に着目しての地理言語学的解釈も、陝西省の周囲の省での分布が必ずしも十分には考慮されていない（張・張（2007b）の◆図1の分布でも東西の隣の省の分布は未詳である）。3分法が周囲の地域にも連続しているようなものであれば、その状況も踏まえて新たな解釈が必要となる。具体的には、本文でも少し触れたように北東部の山西省には3分法の分布があることが、張・張（2007b）で報告されており、2分法を報告した安部・高木（2015.3）でも陝西省北部（榆林市呉堡県宋家川鎮）の話者には3分法とも見られる回答があった。陝西省内のより詳細な調査や近隣の3分法との比較が必要であろう。

それゆえ、今回の解釈は、あくまで地理言語学的な解釈を陝西省内部の分布特徴に限って検討したという範囲に留まるものである。

中国語における3分法の地域は、張維佳・張洪燕（2007b）によれば、広州、山東省内陸部ほかにも色濃い分布が示されている。また、安部・晋萍（2010.3）の調査からは、四川省でも3分法が多く分布しているから四川省全体での調査も必要である。また、安部の2014年12月の広東省（広州市・仏山市ほかの話者）での調査でも、2分法の他、3分法と4分法が確認できた。3分法は◆図1の地点以外にもまだ確認されるのである。

今後の中国での調査では、図1の3分法の分布範囲に留まらず、2分法のみと思われる地域においても、広い地域にわたる多くの話者を対象にした詳細な調査を行っていくことが必要である。それは、小川環樹（1981.11）が指摘した、2分法が先か3分法が先かという中国語における史の変遷の研究課題のみならず、モンスーン・アジア地域における指示代名詞の歴史的分布と変遷を解明する上での課題でもある。

これまでの中国人による中国言語学における指示代名詞（現場指示用法）の調査研究では、指示詞の数と語形による比較が中心であり、各語の使用領域の相違（本稿でのⅠ型とⅡ型等のような）までは不明のことが多い。高橋調査法を行なうことで、複雑な中国語方言での相違をより具体的に比較できることも、本稿では示した。

慣れない中国語方言の回答語形に対する思わぬ誤解や解釈の間違いを懼れる。お気づきの点などご教授いただければ幸いである。

【参考資料＝回答記入調査票】

実際に記載された回答記入調査票を以下での解説の順に数点掲載しておく（記入前の白紙調査票1点、聞き手32番の位置での調査4点、その後、聞き手45番での調査6点。本文で個別に言及した31・35・44・67番及び、一人だけのⅢ型の33番ではその両方での調査票を掲載した。詳しくは本文も参照）。

◇調査票＝Ⅰ型（話し手31番、聞き手32番での調査）——教室内の距離に3語形が現れるパターン。ただし、同じ安康市出身の5名が典型的2分法であるのに対して、その5名とは3つ目の語形（④に記載）の分布範囲（遠称の距離にあたる）が明らかに異なる。3つ目の語形が、日本語のア系の距離に現れる。④の語形は②（＝③）の派生形と見なせるか。

◇調査票＝Ⅰ型（話し手35番、聞き手32番での調査）——上記に同じく教室内の距離において、3語形が現れるパターン。同じ西安市出身の37番とも似ているので西安市を代表させて掲載しておく。

◇調査票＝Ⅱ型（話し手44番、聞き手32番での調査）——遠称（③）の語形は、教室の範囲では現れてこない用法の1名。遠称③は教室内の端でも現れていない。遠称③は教室外の、かなり遠い領域を指示すると推定される（Ⅱ型は本文参照）。

- ◇調査票＝Ⅱ型（話し手 67 番，聞き手 32 番での調査）——遠称 ③の語形は，教室の範囲では現れてこない用法の 1 名。教室外のかかなり遠い領域を指示すると推定される。
- ◇調査票＝Ⅲ型（話し手 33 番，聞き手 32 番での調査）——教室内の距離で 4 語形を使い分ける。4 分法かと思われる話者。聞き手・話し手の位置関係に関わらず，教室の後方（遠方）に対して（座席 17，37，67 等），na4 ③の回答語形）が現れているところに特徴がある。③と④の語形の使い分けが特徴的である。
- ◇調査票＝Ⅰ型（話し手 16 番，聞き手 45 番での調査）——教室内の距離に 3 語形が現れる典型的な 3 分法。西安市西方の宝鶏市であるが、張・張（2007b）の◆図 1 を考慮し、④の「wa3 wei3」を② wei4 の派生的説明型と考えて 3 分法としたが、周辺部なのでこの語形の検討は課題として残った。
- ◇調査票＝Ⅰ型（話し手 31 番，聞き手 45 番での調査）——教室内の距離に 3 語形が現れるが，同じ安康市出身の 5 名が 2 分法であるのに対して，その 5 名とは 3 番目の語形 ④ の分布範囲（遠称の距離にあたる）が明らかに異なる。
- ◇調査票＝Ⅰ型（話し手 35 番，聞き手 45 番での調査）——教室内の距離に 3 語形が現れる典型的な 3 分法。④の語形の記載もあるが，「lao3 yuan4 wu1 ge」とあり，②の「wu1 ge」の説明的語形とみなせる。
- ◇調査票＝Ⅰ型（話し手 37 番，聞き手 45 番での調査）——3 分法。④の回答語形はあるが，「lao3 yuan4」とある説明的語形。
- ◇調査票＝Ⅱ型（話し手 44 番，聞き手 45 番での調査）——遠称 ③の語形は，教室の範囲では現れてこない用法の 1 名。遠称③は教室外の，かなり遠い領域を指示すると推定される。
- ◇調査票＝Ⅱ型（話し手 67 番，聞き手 45 番での調査）——遠称 ③の語形は，教室の範囲では現れてこない用法の 1 名。遠称③は教室内

の端でも現れていない。教室外のかかなり遠い領域を指示すると推定される。

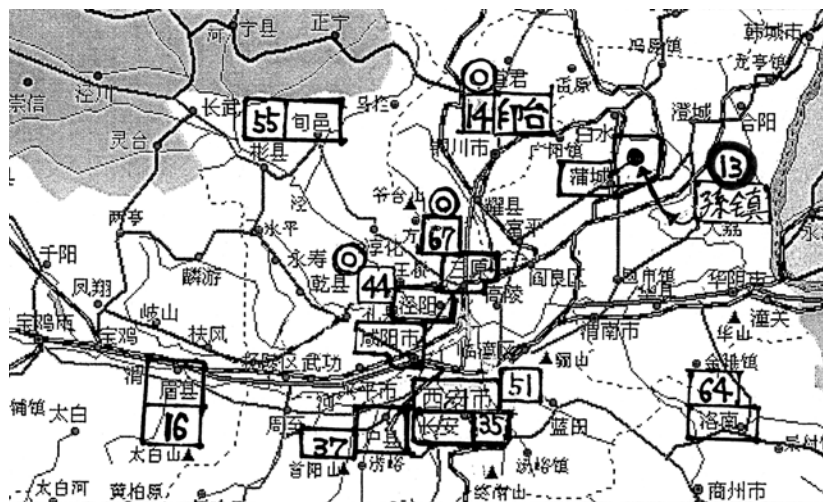
◇調査票＝Ⅲ型（話し手 33 番，聞き手 45 番での調査）——教室内の距離で 4 語形を使い分ける。4 分法かと思われる話者。

（以下，図と参考文献が続く）

◆ 図 6 - (1) 中国陕西省の指示代名詞類型分布地図 (安部)



◆ 図6 - (2) 中国陝西省の指示代名詞類型分布地図（西安市周辺拡大図）（安部）



◆图7- (1) 『漢語方言地图集 語法卷』 012 图 「指示代詞の分類」
(曹志耘：主編，2008) (部分)

(原版のカラー記号を区別するため，一部の記号を○マークで囲んで区別してある)

指示代詞の分類^①

Demonstrative Pronoun Types

三分：声韵不同	三分：声同韵不同	三分：声韵同调不同	二分
★ bo xe ^等	● 单元音 单元音 (nə no ^等) ^②	■ 低平 高平 (n ²² n ⁵⁵)	○ 这 那 ^等
⊙ na u ^等	▲ 复元音 复元音 (ie ai ^等) ^②	⊕ 平 升 (lu ³³ lu ⁴⁵)	
▲ kai nu ^等	▲ 单元音 复元音 (ki kai ^等)	■ 平 降 (ne ³³ ne ²¹) ^等	
▼ kai u ^等	▼ 复元音 单元音 (niə na ^等)	▲ 中升 高升 (lai ²⁴ lai ⁴⁵) ^等	
↑ ko len ^等	◆ 开尾 鼻尾鼻化 (no nen ^等)	◆ 升 平 (n ³¹ n ³³)	
↓ ko xai ^等	◆ 鼻尾鼻化 开尾 (kæ ka ^等)	▼ 升降 (lu ⁴⁵ lu ²³) ^等	
⊙ u ne ^等	▼ 塞尾 开尾 (xyø? xy)	● 低降 高降 (kai ³¹ kai ⁵³) ^等	
⊙ uei no ^等	▲ 塞尾 鼻化 (xit xiŋ)	▲ 降 平 (n ³¹ n ⁴⁴) ^等	
∧ n mi ^等		▼ 降 升 (i ³³ i ¹³)	
∨ n ko ^等			
✓ n uei ^等			
⊙* 其他			

①本图の上部に示した三分類は，二つの非近指の代名詞（それぞれ「指₂」「指₃」とする）を表している。「|」の前は「指₂」の形式、「|」の後ろは「指₃」の形式である。近指代名詞【近称】及び第4類の具体的な言い方は，語法巻 010, 011 図を参照されたい。

②一部の地域では，母音の長さが異なる。例えば新疆阿克蘇：na⁴⁴|na⁴⁴，甘肃西峰：nei⁵⁵|nei⁵⁵。

①本图前三大類反映两个非近指代词（分别称为“指₂”、“指₃”）的分法，“|”前是“指₂”的形式，“|”后是“指₃”的形式，近指代词以及第4大类的具体说法见语法卷010, 011图。

②部分地点为元音长短不同，例如新疆阿克苏：na⁴⁴|na⁴⁴，甘肃西峰：nei⁵⁵|nei⁵⁵。



◆ 図7-(2) 『漢語方言地図集 語法卷』010 図「这~个」
(曹志耘：主編，2008) (部分)

(原版のカラー記号を区別するため、一部の記号を○マークで囲んで区別してある)

这~个^①
Demonstrative Pronoun *zhè* (“this”)

这等	个等	底等	你、尔等	零声母	其他
○ tʂv/tsv ^等	Ⓐ kə/ki ^等	▲ ti ^等	▲ ni/ne ^等	▲ a ^等	★ □ [pai ²²]
⊙ tʂei/tsei ^等	▼ kei/koi ^等	⊙ tə/tei ^等	◆ noŋ	▼ aʔ/sʔ/aiʔ	■ □ [mən ³⁵]
○ tʂəʔ/tseʔ ^等	○ kəʔ/keʔ/kiʔ ^等	↓ ta/to/to	★ n	● i/a ^等	
● tʂɿ/tʂɿ	● ko/ko/ku ^等	★ dʒ	● li/lia ^等	○ iʔ/ieʔ ^等	
▼ tsi/tsia ^等	↓ koʔ	○ dəʔ/diaʔ/diʔ		◆ ɣ/w/u	
▲ tsit/tʂiaʔ ^等	◆ kuai/kue			➤ ɔi/uai	
◆ tʂuo/tʂuo	■ kan				
➤ tsuo/tsui/tsuai	+				
★ tsʰɿ	★ kʰoi/kʰuo/kʰua				
+	ɹ gia ^等				
ɹ tʂin/tʂinŋ	↑ xa				
	↓ xi/xia				

①本図はおおよそ発音によって分類してある。子音あるいは母音が同じもの、近似するものは同じ類に含めている。本字は、完全に確定することはできない。

①本図大致上按读音分类，声韵母相同或相近的归为一个小类，本字不能完全确定。



◆図7-(3) 『漢語方言地図集 語法卷』011図「那〜个」
(曹志耘：主編，2008) (部分)

(原版のカラー記号を区別するため，一部の記号を○マークで囲んで区別してある)

那〜个^①
Demonstrative Pronoun *nà* (“that”)

那字	个字	许字	尔字	零声母	其他
○ na/ne/nɿ ^等	▲ ka/ke/kə ^等	▲ xa/xə/xai ^等	● n/n̩	◦ a/e/ei ^等	▲ □ [p ²¹] ^等
◦ nai/nei ^等	▼ kai/kei ^等	▼ xaʔ/xəʔ ^等	■ m	○ aʔ ^等	▼ □ [pəŋ ²¹]
○ naʔ/nəʔ ^等	○ keʔ/kəʔ ^等	◆ xa/xu/xu ^等		△ i/ie ^等	↓ □ [boŋ ²¹]/□ [bɔ ²¹] ^等
▲ na/nə/nui ^等	● ka/ko/ku ^等	◆ xoʔ/xoʔ		▽ ieʔ	● □ [mɔ ²¹]/□ [mɔ ³¹]/□ [mei ²⁴³] ^等
▲ ni/nie ^等	▲ koʔ/kuʔ	↓ xi/xia/xio		→ u/ɔ ^等	● □ [mɔ ²³] ^等
◆ nen/non/nan ^等	⊙ kue ^等	● xit/xiaʔ ^等		→ ua/uei	▼ □ [mɛ ⁵²] ^等
● la/le ^等	■ koŋ/gə ^等	★ xen/xan/xɔ ^等		ɿ uiʔ/uəʔ	■ □ [feɪ ⁵⁵]
▲ lai/lei ^等	+ tɕi	† cy/ɕiəʔ		* ən	▲ □ [to ³³] ^等
▼ laʔ/ləʔ	* k ^h y				▼ □ [tien ²³]
† la/lu/ləu ^等	† ŋj/ŋo/ŋuo				◆ □ [dɔŋ ²¹]
▲ len/lɛ ^等					◆ □ [dɔ ²²]
					★ □ [tsa ³³]

①本図はおおよそ発音によって分類している。子音あるいは母音が同じもの、近似するものは同じ類に含めている。本字は、完全には確定することはできない。もし指示代名詞に三分法現象がある場合は、本図では、近指に対して**対比的用法**での言い方を取り上げている。

①本図大致上按读音分类，声韵母相同或相近的归为一个子类，本字不能完全确定。如果指示代词有三分现象，本图取与近指对举时的说法。

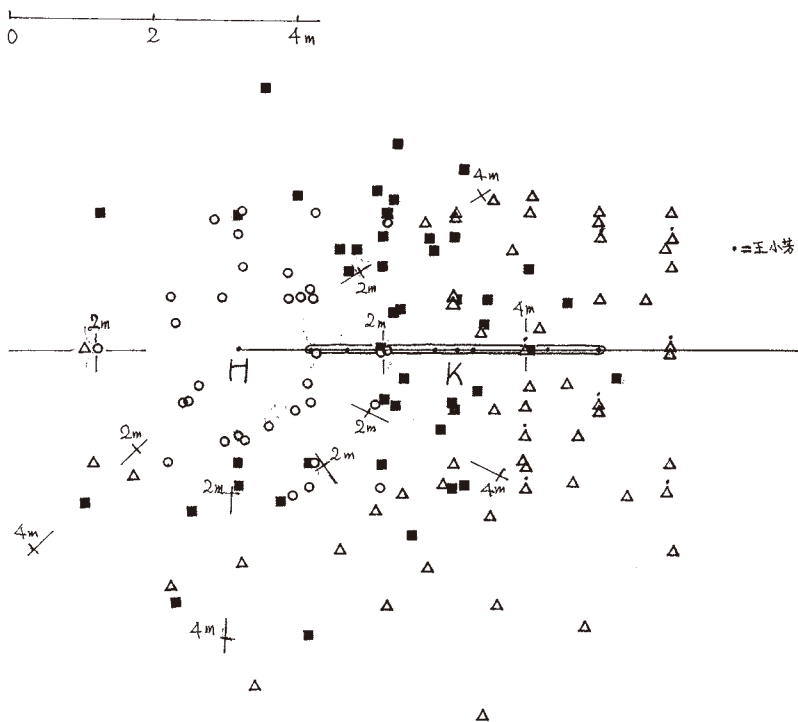


指示領域図 I - a

陝西省方言 3分法 (近中遠型) (西安師範大学学生)

H-K: (聞き手 32 番), 7 名

- I ○ : 近称
- : 中称
- △ : 遠称
- I 型 (K32)



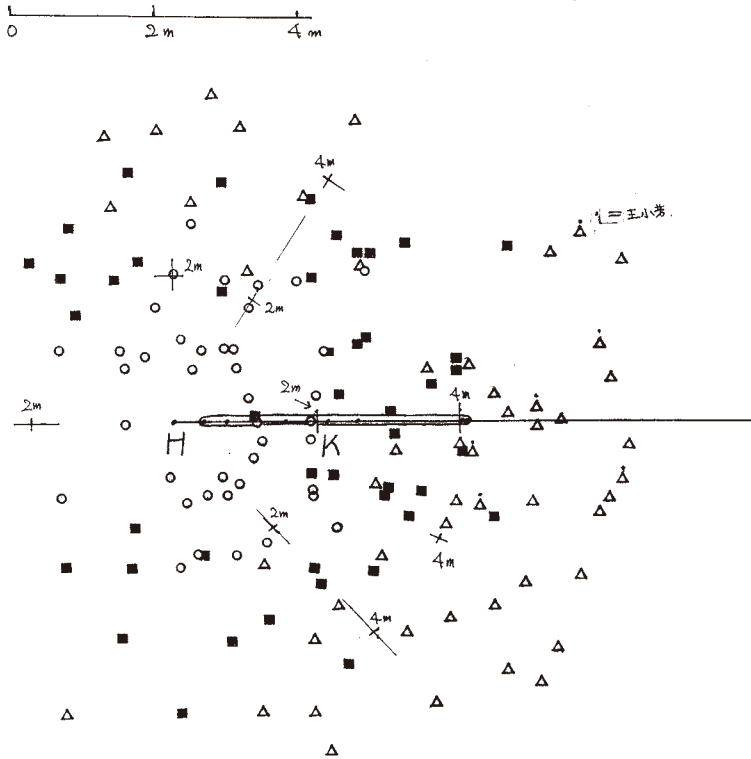
(46)

指示領域図 I - b

陝西省方言 3分法 (近中遠型) (西安師範大学学生)
201403

H-K: (聞き手 45 番), 7 名

- I ○ : 近称
 - : 中称
 - △ : 遠称
- I 型 (K45)

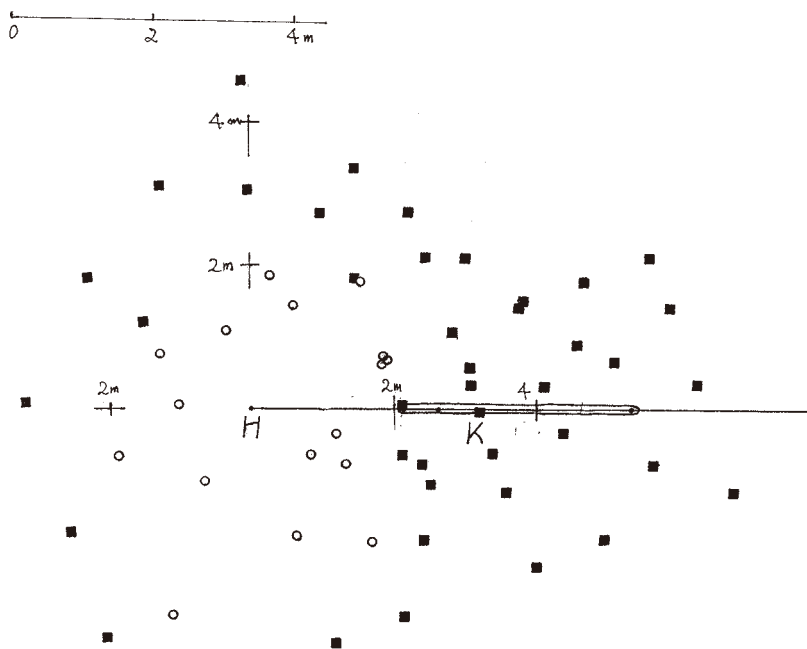


指示領域図Ⅱ-a

陝西省方言 3分法 (近中遥型) (西安師範大学学生)
201403

H-K: (聞き手 32 番), 3 名

- Ⅱ ○: 近称
■: 中称
型 △: 遥称 (教室外の範囲)
Ⅱ型 (K32)



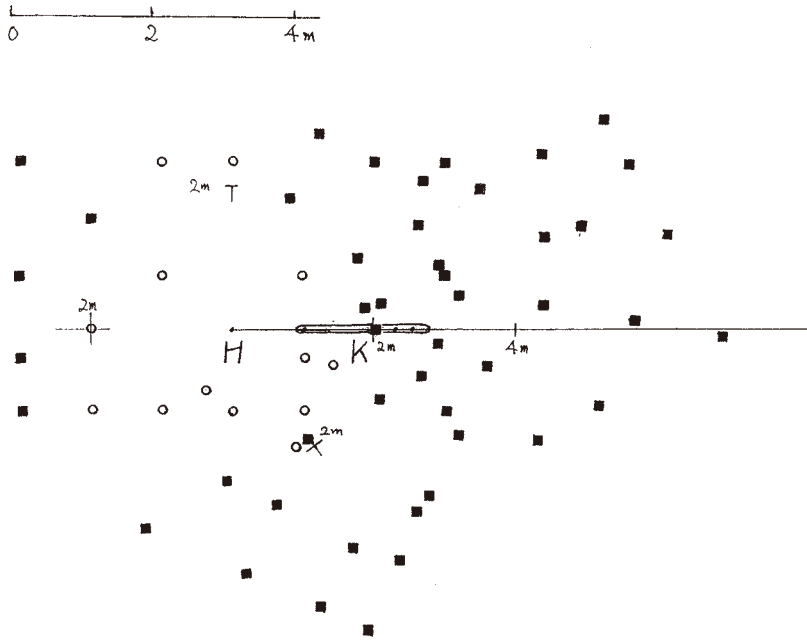
(48)

指示領域図Ⅱ－b

陝西省方言 3分法 (近中遥型) (西安師範大学学生)
201403

H-K: (聞き手 45 番), 3 名

- Ⅱ ○: 近称
■: 中称
型 △: 遥称 (教室外の範囲)
Ⅱ型 (K45)

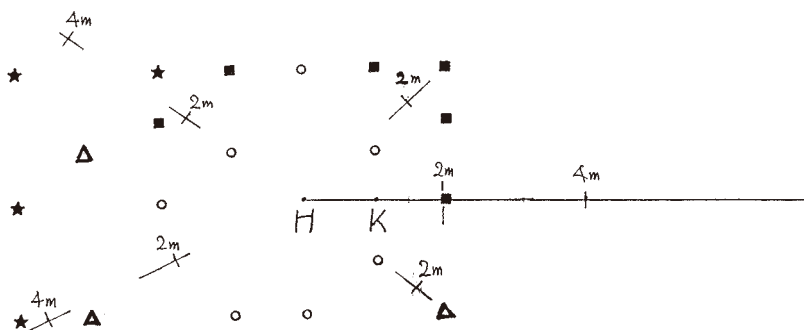
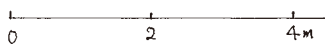


指示領域図Ⅲ-a

陝西省方言 3分法(4分法)(近中遠遙型)(西安師範大学学生)
201403

H-K: (聞き手 32 番), 1 名

- Ⅲ ○: 近称
- : 中称
- 型 △: 遠称
- ★: 遙称
- Ⅲ型 (K32)



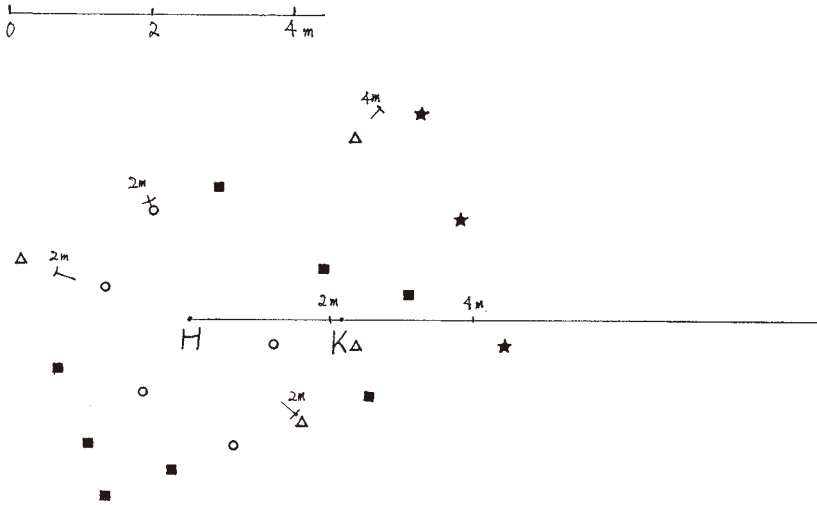
(50)

指示領域図Ⅲ－b

陝西省方言 3分法(4分法)(近中遠遙型)(西安師範大学学生)
201403

H-K:(聞き手45番),1名

Ⅲ ○:近称
■:中称
△:遠称
★:遙称
Ⅲ型(K45)



◇調査票（記入前の白紙原票）

指示詞 現場指示用法（高橋太郎代法） 2014 陕西師範大学 4BE

() 番ばどの人ですか？への回答を記入して下さい。

あなた（記入回答者）の氏名（漢字 pingin, 年齢）男女

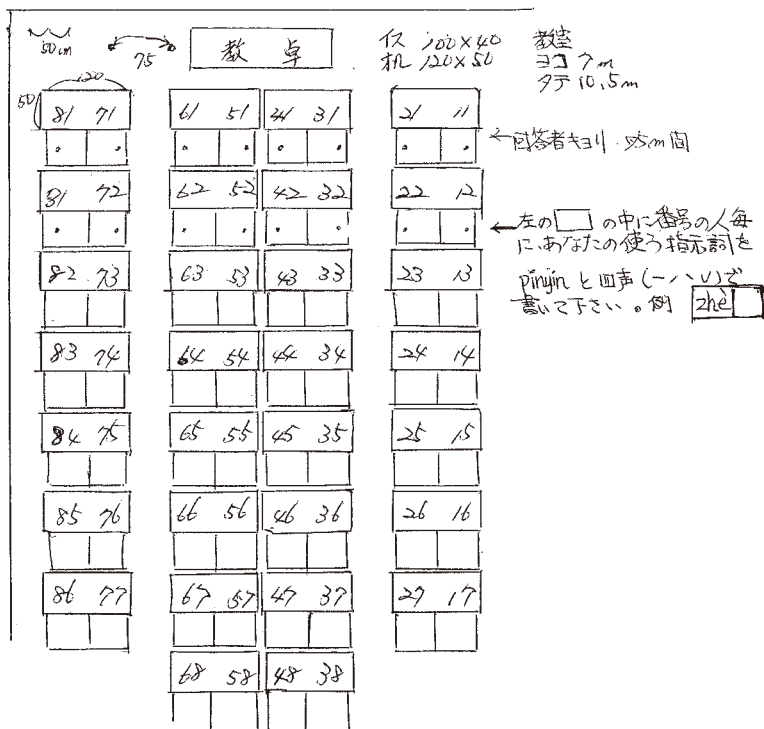
質問 A、B 2回 聞き手()番 あなたの座席番号 No. ()

出生地住所 (省 市) (生) (5~15歳で1番長く住んだ県市)

生年月日 (西暦 年 月 日生) 自分の方言 (方言)
(父親の生まれた省・県・市) (母親が生まれた省・県・市)

○ 自分の故郷で家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語で答えて下さい（普通話と異ってもかまいません）
pinyinで書いて下さい。

① 1) () ② 2) () ③ 3) () ④ おと遠くアノ ()



◇調査票 I 型 (話し手 31 番, 聞き手 32 番)

② 指示詞 現場指示用法 (高橋太郎代誌) 2014 陝西師範大学版 ABE

() 番 どの人ですか? への回答と記入して下さい。

あなた (記入回答者) の氏名 (漢字 ~~王小芳~~ pinyin: Wang Xiaofang (20) 男 ^{年齢} 〇 前

質問 A、B 2 回 聞き手 (32) 番 あなたの座席番号 No. (31)

出生地住所 (陝西省咸阳市汉阴县酒厂镇 ^{こちらで調査し村} 新生) (5~15 歳で 1 年長く住んだ県市)

生年月日 (西暦 1994 年 6 月 5 日生) 自分の方言 (咸阳市汉阴县方言)

(父親の生まれた省・県・市 陕西省咸阳市汉阴县 (母親が生まれた省・県・市 陕西省安康市旬阳县))

○ 自分の故郷で家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語を答えて下さい (普通話と異なってもかまいません) pinyin で書いて下さい。

- ① 1) (A) zhi go ② 2) (A) nie go ③ 3) (A) nie go ④ 4) ぶらぶら (A) nie bian nie go

2 ↓ 3 ↓ I 型

50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
81	71	61	51	41	31	21	11			
.	.	nie go	zhi go	.	□	.	zhi go			
81	72	62	52	42	32	22	12			
		zhi go	.	zhi go	.	zhi go	.			
82	73	63	53	43	33	23	13			
		zhi go	.	.	zhi go	.	nie go			
83	74	64	54	44	34	24	14			
		nie go	.	nie go	.	.	nie go			
84	75	65	55	45	35	25	15			
		nie bian	nie bian	nie go	.	nie bian	nie go			
		nie go			
85	76	66	56	46	36	26	16			
		.	.	nie bian	nie go	.	nie bian	nie go		
				
86	77	67	57	47	37	27	17			
		nie bian	nie go	.	nie bian	nie go	.			
		nie go			
		68	58	48	38					
						

教室 机 100x40 120x50

回答者 31 1. 50m 同

左の □ の中に番号の人毎にあなただけの使う指示詞を pinyin と四声 (一、二、三、四) で書いて下さい。例 zhe

3-I-2

←→

◇調査票I型 (話し手 35 番, 聞き手 32 番)

- ③ 指示詞 現場指示用法 (高橋太郎氏法) 2014 陝西師範大学版 ABE
 () 番ばどの人ですか?への回答を記入して下さい。
 あなたの(記入回答者)の氏名 (漢字) 孙彦迪 Sun Yandi (19) 男 ^{年齢の印}
 質問 A、B 2回 聞き手 (27) 番 あなたの座席番号 No. (35)
 出生地住所 (陕西省西安市长安区韦曲镇 生) (5~15歳で1番長く住んだ県市)
 生年月日 (西暦 1994 年 8 月 18 日生) 自分の方言 (西安长安方言)
 (父親の生まれた省・県・市 陕西省西安市 (母親が生まれた省・県・市 陕西省西安市)
 ④ 自分の故郷で家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語で答
 えて下さい (普通話と異なってもかまいません)
 pinyin で書いて下さい。

- ① ①) (A) zhi ge ②) (K) wu ge ③) (L) wei ge ④) おおと遠い / (L) lao yuan
 wu ge

3分

I 型

教室 机 200x40 机 120x50

81 71	61 51	41 31	21 11
wei ge .	wu ge .	wu ge .	wei ge .
81 72	62 52	42 32	22 12
wei ge .	wu ge .	wu ge .	wu ge .
82 73	63 53	43 33	23 13
wu ge .	wu ge .	zhi ge .	wu ge .
83 74	64 54	44 34	24 14
zhi ge .	zhi ge .	.	zhi ge .
84 75	65 55	45 35	25 15
zhi ge .	zhi ge .	.	.
85 76	66 56	46 36	26 16
.	.	zhi ge .	.
86 77	67 57	47 37	27 17
wu ge .	.	zhi ge .	wu ge .
.	.	.	.

← 回答者 35 番 55 番 同
 ← 左の□の中に番号の人毎
 にあなたの使う指示詞を
 pinyin と四声 (一・二・三・四) で
 書いて下さい。例 zhe

3-I-3
 (5)

◇調査票Ⅱ型 (話し手 44 番, 聞き手 32 番)

③ 指示詞 現場指示用法 (高橋太郎代法) 2014 陝西師範大学版 ABE

() 番号どの人ですか?への回答を記入して下さい。
 あなたの(記入回答者)の氏名 (漢字 ~~高橋太郎~~ pinyin, Mǎ Dān (19) 男 女 年齢 ○印
 質問 A、B 2 回 聞き手 (32) 番 あなたの座席番号 No. (44))
 出生地住所 (陝西省咸陽市涇陽縣泉 庄) (5~15 歳まで長く住んだ県市)
 生年月日 (西暦 1994 年 12 月 30 日生) 自分の方言(咸陽市涇陽縣方言)
 (父親の生まれた省・県・市) (母親が生まれた省・県・市)

○ 自分の故郷で家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語で答えて下さい (普通話と異なってもかまいません)
 pinyin で書いて下さい。

① 1) () zhèi qǐ ② () wèi qǐ ③ () wài qǐ ④ おとゑの () wài qǐ

3分

II 型

		教室	
50	71	Wei qǐ	100x40 机 120x50
51	72	Wei qǐ	Wei qǐ 回答者 3011 25m 間
52	73	zhe qǐ	Wei qǐ 左の □ の中に番号の人毎 にあつたの使う指示詞を pinyin と四声 (- / ˊ / ˋ / ˋˊ) で 書いて下さい。例 zhe
53	74	zhe qǐ	zhe qǐ
54	75	zhe qǐ	zhe qǐ
55	76	zhe qǐ	zhe qǐ
56	77	Wei qǐ	Wei qǐ
57	78	zhe qǐ	zhe qǐ

pin yin.

3-II-①

⑤

◇調査票Ⅱ型 (話し手 67 番, 聞き手 32 番)

④ 指示詞 現場指示用法 (高橋太郎氏法) 2014 陝西師範大学教 ABE
 (32) 巻ばどの人ですか?への回答と記入して下さい。
 あなたの(記入回答者)の氏名 (漢字 ~~王健民~~ pinyin, Wang Jianmin (27) 男(女) 年齢 0 年
 質問 A・B 2回 聞き手 (32) 番 あなたの座席番号 No. (67)
 出生地住所 (陕西省 咸阳市 咸阳市 生) (5~15歳で1巻長く住んだ県市) 咸阳市
 生年月日 (西暦 1992年 08月 01日生) 自分の方言 (陝西 咸阳市 方言)
 (父親の生まれた省・県・市 陕西省咸阳市) (母親が生まれた省・県・市 陕西省咸阳市)
 ○ 自分の故郷が家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語を答
 えて下さい (普通話と異なっていてもかまいません)
 pinyinで書いて下さい。

- ① ㄐ) zhei ② ㄑ) wei ③ ㄒ) wei da ④ ㄓ) wei da de

3分
2分
II型

	50	75	教卓	100x40 机 120x50
81	71	61 51	41 31	21 11
.	.	wei wei	.	wei
81	72	62 52	42 32	22 12
		wei .	wei 先生	wei .
82	73	63 53	43 33	23 13
		wei .	.	wei
83	74	64 54	44 34	24 14
		wei .	wei .	.
84	75	65 55	45 35	25 15
		zhei wei	.	wei
85	76	66 56	46 36	26 16
		.	zhei .	.
86	77	67 57	47 37	27 17
		wei .	.	zhei
		68 58	48 38	.
		.	.	.

← 回答者301・55m 周
 ← 左の□の中に番号の人毎にあるあなたの使う指示詞を pinyin と四声 (一・二・三・四) で書いて下さい。例 zhei

3-II-2
 ④

◇調査票Ⅲ型 (話し手 33 番, 聞き手 32 番)

④ 指示詞 現場指示用法 (高橋太郎代法) 2014 陝西師範大学版 ABE
 () 巻ばどの人ですか? への回答を記入して下さい。 年令 ○印
 あなたの (記入回答者) の氏名 (漢字 ~~郭~~ pinin Guo Qian Qian (20) 男女)
 質問 A・B 2 回 聞き手 (32) 番 あなたの座席番号 No. (33)
 出生地住所 (陝西 省 漢中市 南鄭縣 ~~南鄭縣~~ 出生) (5~15 歳で 1 番長く住んだ県市)
 生年月日 (西暦 1994 年 10 月 12 日生) 自分の方言 (汉中南鄭県 方言)
 (父親の生まれた省・県・市 陝西省 漢中市) (母親が生まれた省・県市 陝西省 漢中市)
 ○ 自分の故郷で家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語を答えて下さい (普通話と異なっていても可い。本人)
 pinin で書いて下さい。

- ① 1) (ウ) hi 9e ② ヲ) (ウ) mi 9e ③ ア) (ウ) na 9e ④ オ) (ウ) me 9e

4分 4分 Ⅲ型 Ⅳ型

50cm 75 教卓 120x40 机 120x50

わかる逆か? 記号は④と①を下の1列に記号者ヨリ。②の同記号と③の同記号と (異列で可)

車の□の中に番号の人毎にあつたの使う指示詞を pinin と四声 (一・二・三・四) で書いて下さい。例 zhe 1

81	71	61	51	41	31	21	11
82	72	62	52	42	32	22	12
83	73	63	53	43	33	23	13
84	74	64	54	44	34	24	14
85	75	65	55	45	35	25	15
86	76	66	56	46	36	26	16
87	77	67	57	47	37	27	17
		68	58	48	38		

3-Ⅲ-①
⑥

◇調査票I型 (話し手 16番, 聞き手 45番)

指示期 現場指示目法 (高橋太郎氏院) 2014 陝西師範大学漢人院

() 番号どの人ですか?への回答を記入して下さい。

あなた(記入回答者)の氏名 (漢字 ~~XXXXXXXXXX~~ pinyin, Song Jie 21) ^{年令} 男

質問 A ③ 2回 聞き手 (45)番 あなたの座席番号 No. (16)

出生地住所 (陝西 漢中 略陽 略陽鎮 生) (5~15歳を1番長く住んだ県・市)

生年月日 (西暦 1993 年 6 月 27日生) 自分の方言(眉县 話)

(父親の生まれた省・県・市 陝西 略陽 略陽鎮) (母親が生まれた省・市 陝西 略陽 略陽鎮)

- 自分の故郷で家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語を答えて下さい (普通話と異なっていてもかまいません) pinyinで書いて下さい。

- ① 1) () zài gē 2) 2) () wéi gē ③ 3) () nài gē ④ 4) () wéi gē

3分
4
I型

座席	1	2	3	4
81	71	71	71	71
82	72	72	72	72
83	73	73	73	73
84	74	74	74	74
85	75	75	75	75
86	76	76	76	76
87	77	77	77	77
88	78	78	78	78

1) () zài gē 2) 2) () wéi gē ③ 3) () nài gē ④ 4) () wéi gē

座席 100x60
机 120x50

回答者304 50m 固

座の□の中に番号の人毎にあなたの使用指示詞を pinyin と西暦 (- / /) で書いて下さい。

3-I-①
④

◇調査票I型 (話し手 31番, 聞き手 45番)

指示詞 現場指示用法 (高橋文朗氏法) 2014 陝西師範大学級 ABE
 () 番号とどの人ですか?への回答を記入して下さい。
 あなた(記入回答者)の氏名 (漢字 ~~XXXXXXXXXX~~ pinyin wang xiao fang (20) 男 姓
 質問 A ③ 2回 聞き手 (45) 番 あなたの座席番号 No. (31)
 出生地住所 (陝西 省 安康市 汉阴县 酒店镇 新街) (5~15歳で1番長い住んだ漢市
 生年月日 (西暦 1994 年 6 月 5 日生) 自分の方言 (安康市 汉阴县 方言
 (父親の生まれた省・県・市 陝西省 安康市 汉阴县) (母親が生まれた省・県・市 陝西省 安康市 汉阴县
 ○ 自分の故郷が家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語で答えて下さい (普通話と異っていてかまいません)
 pinyin で書いて下さい。

- ① コ (w) zhi go ② ヲ (w) nie go ③ ア (w) nie go ④ オ (w) nie bian nie go

2分 ↓ 3分 I型

	敬亭	依 100x40 机 120x50
81 71	41 51 31	11 11
82 72	42 52 32	12 12
83 73	43 53 33	13 13
84 74	44 54 34	14 14
85 75	45 55 35	15 15
86 76	46 56 36	16 16
87 77	47 57 37	17 17
	48 58 38	

← 回答者番号 55m 固
 ← 左の□の中に番号の人毎にあつたの使う指示詞を pinyin と国字 (一、ハ、V) で書いて下さい。例 zhi

3-I-2
 ←

◇調査票I型 (話し手 35 番, 聞き手 45 番)

③ 指示詞 現場指示用法 (高橋太郎氏院) 20/4 陝西師範大学校 ABE
 () 番ほどの人ですか?への回答を記入して下さい。
 あなたの(記入回答者)の氏名 (漢字 ~~XXXXXXXXXX~~ pinyin: Sun Yidi (9) 男)
 質問 A ② 2回 聞き手 (45) 番 あなたの座席番号 No. (35)
 出生地住所 (陝西省西安市長安区 柳鎮 生) (5~15歳で1番長く住んだ県市
 生年月日 (西暦 1994 年 8 月 18 日生) 自分の方言 (長中, 方言
 (父親の生まれた省・県・市 陝西省西安市) (母親が生まれた浦県市 陝西省西安市)
 ○ 自分の故郷が家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語で答
 えて下さい (普通話と異なっていてもかまいません)
 pinyin で書いて下さい。

① ①) (A) zhi ge ②) (A) wu ge ③) (A) wei ge ④) おもて遠くの人 (A) lao yuan
 wu ge

3分

I型

	教室	机 100x40 机 120x50
81 71	Wei ge Wei ge • Wu ge	Wei ge
82 72	Wei ge • Wu ge •	Wei ge
83 73	Wu ge • zhi ge	Wu ge
84 74	Zhi ge • zhi ge •	Zhi ge
85 75	Zhi ge zhi ge • 35	• •
86 76	• zhi ge •	• zhi ge
87 77	Wu ge • zhi ge	• Wu ge
88 78	• • •	• • •

3-I-3
 (5)

◇調査票I型 (話し手 37番, 聞き手 45番)

④ 指示詞 現場指示用法 (高橋文朗氏法) 2014 陝西師範大学版 ABE
 () 番号との人々ですか?への回答を記入して下さい。
 あなた(記入回答者)の氏名 (漢字 ~~XXXXXXXXXX~~ pinyin wu jing (2) 男 ⊗
 質問 A ③ 2回 聞き手 (45) 番 あなたの座席番号 No. (37)
 出生地住所 (陕西省西安市碑林区五竹镇新阳村生) (5~15歳で1番長く住んだ県市
 生年月日 (西暦 1992年9月14日生) 自分の方言(西安市碑 方言
 (父親の生まれた省・県・市陕西省西安市碑) (母親が生まれた省・県市陕西省西安市碑
 ○ 自分の故郷が家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語で答
 えて下さい (普通話と異なっていてかまいません)
 pinyinで書いて下さい。
 ① 1) () zhei ② 7) () nei ③ 7) () wei ④ 7) () lǎo yuan

3分

I型

	教 卓	机 100x40 机 120x50
81 71	41 41 wei wei ge ge	11 11 wei ge
82 72	42 42 wei wei ge ge	12 12 wei ge
83 73	43 43 wei wei ge ge	13 13 wei ge
84 74	44 44 wei wei ge ge	14 14 wei ge
85 75	45 45 nei nei ge ge	15 15 wei ge
86 76	46 46 wei wei ge ge	16 16 nei ge
87 77	47 47 nei nei ge ge	17 17 nei ge
	48 48 zhei zhei ge ge	18 18 nei ge

← 回答者キヨリ 5m 以内
 ← 左の□の中に番号の人毎
 にあなたの使う指示詞を
 pinyinと西字(一・ハ・V)で
 書いて下さい。例 zhei

3-I-④
 ②

◇調査票Ⅱ型 (話し手 44 番, 聞き手 45 番)

③ 指示詞 現場録音法 (高橋次郎氏法) 2014 陝西師範大学版 ABE
 () 番ほどの人ですか?への回答を記入して下さい。
 あなたの(記入回答者)の氏名 (漢字 ~~張子~~ pinyin. mǎ dān (19) 男 年齢 0 前
 質問 A. 2回 聞き手 (45) 番 あなたの座席番号 No. (44.)
 出生地住所 陝西 省 咸陽市 泾陽縣 育嬰堂 (5~15歳で1番長く住んだ県市
 生年月日 (西暦 1994 年 12 月 30 日生) 自分の方言 (咸陽市 泾陽縣 方言
 (父親の生まれた省・県・市 陝西省咸陽市 (母親が生まれた省・県・市 陝西省商洛市
 ○ 自分の故郷で家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語で書
 て下さい (普通話と異なってもかまいません)
 pinyin で書いて下さい。

- ① 1) zheige 2) wei ge 3) nai ge 4) zhe ge 5) yan hien nai ge

3分

敬語	120x40 札	120x50
81 71	61 51 41 31	21 11
	wei ge wei ge wei ge	wei ge
82 72	62 52 42 32	22 12
	zheige zheige wei ge	
83 73	63 53 43 33	23 13
	zheige zheige zheige	zheige
84 74	64 54 44 34	24 14
	zheige zheige zheige	zheige
85 75	65 55 45 35	25 15
	zheige zheige zheige	
86 76	66 56 46 36	26 16
	wei ge wei ge	wei ge
87 77	67 57 47 37	27 17
	wei ge wei ge	wei ge
	68 58 48 38	
	.	

左の□の中に番号の人毎にあてこの使う指示詞を pinyin と音声 (-ハ-) で書いて下さい。例 zhe

3-II-1
5

◇調査票Ⅱ型（話し手 67 番，聞き手 45 番）

指示詞 現場指示用法（高橋次郎氏） 2014 陝西師範大学校 9E

(45) 番ほどの人ですか？への回答を記入して下さい。

あなた（記入回答者）の氏名（漢字 ~~王健~~ pinyin: Wang Jian (22) 男 年齢

質問 A, B 2回 聞き手 (45) 番 あなたの座席番号 No. (67)

出生地住所（陝西省咸陽市）（5~15歳で1番長く住んだ都市）

生年月日（西暦 1992 年 08 月 01 日生）自分の方言（陝西咸陽方言）

（父親の生まれた省・県・市 陝西咸陽）（母親が生まれた省・県・市 陝西咸陽）

○自分の故郷が家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語で答えて下さい（普通話と異っていてかまいません）
pinyin で書いて下さい。

① (1) zhei ② ㄨㄟ wèi ③ アル wèi da ④ ㄨㄟ da da

3分 (2→3) Ⅱ型

敬亭 依 100x40 札 120x50 王敬亭さんのP (4下付) wei da 礼意 (敬意のA) ハイ

81 71	61 51 41 31	1 11
	wèi wèi • wèi	• wèi
82 72	62 52 42 32	2 12
	wèi • wèi •	wèi •
83 73	63 53 43 33	3 13
	wèi • • wèi •	• wèi
84 74	64 54 44 34	4 14
	wèi • wèi •	• wèi
85 75	65 55 45 35	5 15
	wèi wèi • wèi	• •
86 76	66 56 46 36	6 16
	• • zhei •	• wèi
87 77	67 57 47 37	7 17
	• • • zhei	• wèi
88 78	68 58 48 38	
	• • • •	

← 回答者キヨ川 55m 固

← 左の□の中に番号の人毎にあつたの使う指示詞を pinyin と音声（ーハノ）で書いて下さい。例 zhei

3-II-2 ㊸

◇調査票Ⅲ型 (話し手 33 番, 聞き手 45 番)

④ 指示詞 現場指示用法 (高橋太郎氏法) 20/4 陝西師範大学 48E
 () 番号どの人ですか?への回答を記入して下さい。
 あなた(記入回答者)の氏名 (漢字 ~~郭~~ pinin Gao Qian Qian, 20) 男
 質問 A、B 2 回 聞き手 (45) 番 あなたの座席番号 No. (33)
 出生地住所 (陝西 省 漢中 市 南 鄭 梁 山 鎮 生) (5~15 歳で 1 番長く住んだ 漢 市)
 生年月日 (西暦 1994 年 10 月 12 日生) 自分の方言 (漢中市南鄭 方言)
 (父親の生まれた省・県・市/陕西省・漢中) (母親が生まれた省・県・市/陕西省・漢中)
 ○ 自分の故郷が家族や故郷の親しい友人と話す時に使う中国語を答
 えて下さい (普通話と異っていてかまいません)
 pinin で書いて下さい。

① コ) ① shi ge ② wu ge ③ yu ge ④ zhi ge ⑤ zhi ge

3分
4
Ⅲ型

敬 亭

81	71	61	51	41	31	21	11
82	72	62	52	42	32	22	12
83	73	63	53	43	33	23	13
84	74	64	54	44	34	24	14
85	75	65	55	45	35	25	15
86	76	66	56	46	36	26	16
87	77	67	57	47	37	27	17
		68	58	48	38		

120x40
120x50

記入は(中)△
③系に③△
答者ヨリ・時の因

その□の中に番号の人毎
にあなたの使う指示詞を
pinin と西字 (- / \ /) で
書いて下さい。例 342

3-III-①
⑥

- [参考文献] (なお、一部の【 】内の題名は中国語訳ないし日本語訳の論文題名)
- 安部清哉, 2008.3, 「アジアの中の日本語方言」【**亞洲範圍内的日語方言**】『シリーズ方言学 1 方言の形成』岩波書店
- 安部清哉, 2009.3a, 「指示代名詞の現場指示の領域——高橋調査法による2008年若者のコソアド——」『**学習院大学文学部研究年報**』55, pp.73～112, 学習院大学文学会
- 安部清哉, 2009.3b, 「指示代名詞のアジアにおける地理言語学的研究課題——小川環樹 1981「蘇州方言的指示代詞」(安部・晋萍共訳) 付載——」【**指示代詞在亞洲的地理語言学研究課題**】『**東洋文化研究**』11, pp. (1)～(50), 学習院大学東洋文化研究所
- 安部清哉・晋萍 (共著), 2010.3, 「指示代名詞の中国語四川方言における三分法(現場指示)の存在とその類型」『**東洋文化研究**』12, 学習院大学東洋文化研究所, pp.511 - 548
- 晋萍・安部清哉, 2011.9, 「四川方言指示代詞三分現象初探」『**西南民族大学学报**』**外国語言文学与文化研究**第32卷
- 安部清哉・黄于榕 (協力), 2011.3, 「チュワン語の指示代名詞における3語形による二分法と日本語——『**近称・遠称・他称**』による三語用法(壮語=僮語: チワン語北方方言) ——」『**学習院大学国語国文学会誌**』54, 横 (59)～(77)
- 安部清哉・高木愛子, 2015.3, 「指示代名詞の中国語陝西方言における2分法用法(現場指示用法)」『**学習院大学文学部研究年報**』61, 学習院大学文学部
- 岡崎友子, 2010, 『**日本語指示詞の歴史的研究**』ひつじ書房
- 小川環樹, 1981.11, 「蘇州方言的指示代詞」**方言編輯部編『方言』**(季刊1981年第4期), pp.282～288, 北京・中国社会科学出版社(原文中国語)
- 金水敏・田窪行則, 1992, 『**指示詞**』ひつじ書房
- 曹志耘主編, 2008, 『**漢語方言地図集 語法卷**』商務印書館出版

- 高橋太郎・鈴木美都代, 1982, 「コ・ソ・アの指示領域について」『研究報告集』3 (国立国語研究所報告 71) 秀英出版
- 高橋太郎・中村祐里子, 1992.1, 「1991年, わかものコソアド」『麗澤大学論叢』3
- 張維佳, 2005, 「山西晋語指示代詞三分系統的来源」【中国語山西省晋語の指示代名詞の三分法の来源】『中国語文』2005年第3期
- 張洪燕, 2006, 「漢語方言指示代詞系統的類型研究」【中国語方言における指示代名詞系統の類型的研究】『北京語言大学修士論文』
- 張維佳・張洪燕, 2007a, 「遠指代詞「兀」和突厥語」【中国語の遠称指示代名詞「兀」と突厥語】『民族語文』第2007年第3期
- 張維佳・張洪燕, 2007b, 「漢語方言指示代名詞二分系統与三分系統探析」【中国語方言指示代名詞の二分法系統と三分法系統の分析考察】『語言歷史論叢』第1集, 巴蜀書社
- 張維佳・張洪燕, 2008, 「漢語方言指示代詞系統分類及其語言地理学研究」【中国語方言における指示代名詞の系統分類とその地理言語学的研究】『北京語言大学漢語言文字学論叢・方言卷』北京語言大学出版社
- 中村祐理子, 1990, 「現在におけるコソアドの変化についての実験的研究」『麗澤大学紀要』51

【謝辞】

調査において, ご理解とご高配を賜りました王 紅先生 (陝西師範大学外国語学院日本語学部・主任教授), また, 現地大学への調査協力依頼, 話者の手配等の事前準備および調査会場での作業ほかご協力を戴いた高木愛子氏 (当時, 陝西師範大学外国語学院日本語学部外籍講師, 現在, 帰国して学習院大学大学院修士課程に復学), 滞在中および調査会場にてご助力戴きました市来弘志先生 (陝西師範大学外国語学院日本語学部外籍講師), さらになによりも, 長時間にわたる複雑な調査に根気よく献身的に協力してくれた学生諸君 (集団調査, 個別調査, 一部重複合計 25 名) にも, この場を借りてあつく御礼申し上げます。(なお, データの整理等では, 安部ゼミ OG の三森千聖氏に在籍時に引き続き研究補助としてご協力いただいたことを記し, 感謝申し添える。)

また, 回答語形や張・張 (2007b) 論文の解釈などで晋萍氏 (上海海事大学) の御教授をいただいたことを記し, 感謝申し上げます。

